週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1970
昭和45年

3|11
平成9年3月11日発行
(毎週1回発行)第1巻第4号
¥550
講談社

三島由紀夫 割腹自殺!

EXPO'70で日本も大国の仲間入り
初のハイジャック!「よど号」の122時間
ウーマン・リブの高まり、米国10万人デモ

3兆3000億円の経済効果！EXPO'70が日本を「大国」に押しあげた

世界77ヵ国が参加した万国博は、高度経済成長を加速させた日本の、「大国入り」宣言でもあった。一方この年、生産至上主義が各地で公害問題を引き起こし、物質万能の風潮への反省から、「古きよき日本」を再発見する「ディスカバー・ジャパン」のキャンペーンが始まる。

▲会場では117の建造物が偉容を誇り、それぞれのお国柄をアピールした。博覧会終了後はほとんどが取り壊され、跡地は「万国博記念公園」として整備された。 朝日新聞社

三回目の誘致で実現した博覧会史上最大の祭典

万国博覧会が最初に開かれたのは一八五一年、ロンドンだった。その一一年後にもロンドンで開かれた博覧会を、福沢諭吉ら三六名の遣欧使節が見学し、西洋の技術に目を丸くしている。以来、富国強兵・殖産興業を国是とした日本は、その成果を世界に示そうと万国博の誘致を試みた。最初の一九〇七年（明治四〇）は世界から相手にされず、二回目の一九四〇年（昭和一五）は戦争で流れた。

まさに三度目の正直、日本万国博覧会（EXPO'70）は一九七〇年三月一四日に開幕した。テーマは「人類の進歩と調和」だった。初期の万国博が機械文明を謳歌していたのに対し、戦後はヒューマニズムをテーマにうたうようになっていた。

大阪府千里丘陵に造成された三三〇万平方メートルの会場の中心には、岡本太郎設計・制作の「太陽の塔」が建てられ、一一七のパビリオンが展示を競った。

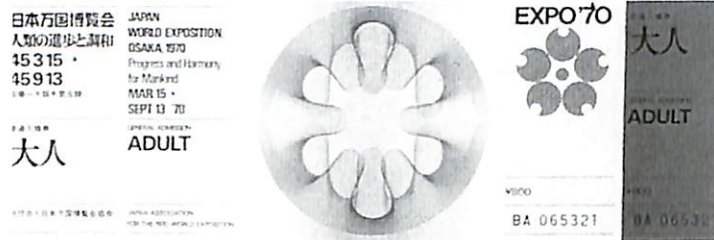
とりわけ人気だったのが、一〇二メートルの尖塔がそそり立ち、二万五〇〇〇平方メートルという最大の広さに宇宙船のドッキング場面を展示したソ連館、高圧エアドームのパビリオンに月の石やアポロ一二号の実物模型などを展示したアメリカ館だった。

三三の国内展示館の多くは同業種（電力館、鉄鋼館、自動車館など）か系列（三井グループ館、住友童話館など）で、企業グループで参加したのが特徴。これは商業色の排除と大規模な展示が狙いだった。なにしろ主催者の日本万国博覧会協会の会長には前経団連会長の石坂泰三氏が就任し、通産省企業局が監督官庁と

▲高さ70メートルの「太陽の塔」は、万国博のシンボル。会期中、赤軍派の元旭川市職員(25)が1週間たてこもり、「バンパクをつぶせ」と演説して逮捕された。 共同通信社

◎表紙 11月25日、東京・市谷の自衛隊バルコニーに立ち演説する三島由紀夫。この後、割腹。 共同通信社

3兆3000億円の経済効果！ EXPO'70が日本を「大国」に押しあげた

あらゆる面で「特別博」をしのいだ「一般博」

EXPO'70を、後の三つの博覧会と比較してみよう。開催期間はいずれも半年間である。

沖縄県本部（もとぶ）半島を会場にした「沖縄海洋博」（1975-76年、参加36ヵ国、3国際機関、1自治領）は、入場者数348万人で、目標の445万人を大きく下回った。73年の石油ショック不況で規模を縮小せざるをえなくなり、離島という地理的条件が重なった結果だった。

茨城県つくば市で開催された「科学万国博」（1985年、参加48ヵ国、37国際機関）は、目標2000万人をわずかに上回る2033万人だった。

大阪の鶴見緑地で行われた「花博」（1990年、参加83ヵ国、55国際機関）は目標2000万人を大きく上回る2312万人が入場した。バブル経済の真っただ中という好条件が客足を伸ばしたようだ。

このうち黒字だったのは、花博（10億円）だけ。大阪万国博の入場者数6421万人（165億円の黒字決算）は、いまだに国内イベントの最高記録である。開催年の70年がまだ高度経済成長期だったせいもあるが、大阪万国博があらゆる分野の展示を行う「一般博」で、ほかが海、科学、花だけに限定した「特別博」だったのも、低迷の理由だろう。

会場内での食事や買い物に、一人平均七一六円を使った。収支は一六五億円の黒字決算。関連道路や鉄道が整備され、輸送機関、ホテル産業、外食産業が恩恵を受け、その経済効果を三和銀行調査部は三兆三〇〇〇億円と推計した。

入場者数や採算という面では大成功だったわけだが、アメリカ政府代表のチャーノフ氏は、「万国博で産業技術の歩みをうたいあげる時代はすぎたのではないか。人類の交歓と相互理解を」と反省点を指摘している。

しかし、日本はその後も巨大なイベントを開催して公共投資を集中し、地域開発をはかるというやり方を変えなかった。一九七五年の「沖縄国際海洋博覧会」、八五年の「国際科学技術博覧会」、九〇年の「国際花と緑の博覧会」と次々に開催し、地域開発と経済成長に邁進（まいしん）しようとしたのである。

その後、九〇年代に入ってバブル経済が崩壊、九五年に予定していた「世界都市博」（東京）は、中止された。奇しくもその推進に執念を燃やしていたのは、七〇年の万国博で事務総長をつとめていた鈴木俊一・前東京都知事だった。今や巨大イベントによる経済活性策は、大きな曲がり角を迎えている。

◀有人宇宙船ボストークをはじめとして、ソ連館の展示物は、質・量ともに他を圧倒した。 朝日新聞社

▲入場者の大半は、全国の農協、町内会などの団体客。入場したら、まずお祭り広場を背景に記念写真を撮り、それから見物を始めるのがお定まりのコースだった。 毎日新聞社

いう、官・財界の総力をあげてのイベントだったのである。

パビリオンに長蛇の列、「残酷博」の異名までも

エスコートガイドだった大森昭子さん（当時二五）は、海外からの賓客（ひんきゃく）の案内や通訳をつとめる〝万国博の華（はな）〟だった。開会式では入場行進の先頭を歩いた。

「毎日のようにお祭り広場で、参加国のナショナルデイの記念イベントが開かれ、その国の元首や政府高官の方がお見えになって、本当にインターナショナルな祭典でした」

ちなみに、会場を彩るホステスも、世界の祭典にふさわしく参加国から派遣された女性ら三〇〇〇人。万国博協会は、彼女たちのために特別な規則を作った。①自分の住所は教えない②金品はもらわない③仕事で知り合った異性との個人的交際は許さない……。

大森さんは、その三年前に開かれたモントリオール万国博で働いた経験もあった。

「モントリオールに比べると、日本は農協などの団体が多く、集団行動でせわしなかったようです。ホステスさんたちと会話を楽しむ余裕があれば楽しめたのに」

と当時を振り返る。

しかし、そんな団体客のおかげで会場は連日の大盛況だった。パビリオンには長蛇の列が並び、観客の場内滞在時間は平均六時間半。うちパビリオンの中にいるのは二時間半で、残り四時間は順番待ちや移動についやされた。会期終了間際には観客が殺到、会場が混乱して「残酷博」の異名も生まれた。毎日二五〇人の迷子、迷大人を出し、四八〇人がめまいや腹痛の手当てを受け、二九〇個の忘れ物、落とし物をし、二〇〇トンのゴミが出たという。

一八三日の期間中の入場者数は、六四二一万人。目標の五〇〇〇万人を大きく上回る結果となった。入場者は、大人八〇〇円、小人四〇〇円の入場料を払い、

▶終電車に乗り遅れ、ごみ袋の中で一夜を明かす家族連れ。 共同通信社

市ケ谷駐屯地、衝撃の十一月二五日！
三島由紀夫〝割腹自殺〟の動機と結末

▲昭和45年11月25日正午すぎ、三島由紀夫（右）は、森田必勝とともに約800人の自衛隊員を前に、バルコニーから要求書の幕を掲げ、「決起」を呼びかけた。 毎日新聞社

昭和四五年十一月二五日、東京・市谷の陸上自衛隊東部方面総監・益田兼利陸将の面前で、作家の三島由紀夫（四五）が割腹自殺した。何が彼を駆り立てたのか。激高した三島らの思いとは裏腹に、自衛隊の挙動はいたって冷淡だった。

決起を叫ぶ「檄」に野次と罵声の嵐が

初冬の陽射しの中を一台の車が、東京・市谷の陸上自衛隊駐屯地にすべりこんだ。東部方面総監部正面玄関に立ったのは、作家の三島由紀夫と「楯の会（三島が結成した民間軍組織）」会員四人。全員が同会の軍服をまとっていた。

三島たちは、総監室に招き入れられ、益田兼利総監と面談すること、五分。話題が三島のさげてきた日本刀におよぶと、「楯の会」のメンバーが不意をついて益田総監に襲いかかり、総監は両手両足を椅子に縛りつけられた。

異状を知った自衛隊側は、総監を救出すべく二度、突入を試みるが、失敗（計七人が負傷）。説得はむずかしいと判断し、駐屯地にいる全自衛官を総監部前に集合させ、三島の演説、檄文を散布するなどの要求を了承する。

正午のサイレンが駐屯地に鳴り響き、三島が「楯の会」学生長・森田必勝（二五）とバルコニーに現れた。三島は握り拳を振り上げ、憲法改正による自衛隊の国軍化と天皇擁護を訴え、絶叫する。

「自衛隊が二〇年間、血と涙で待った憲法改正ってものの機会はないんだ。……自衛隊にとって建軍の本義とはなんだ。日本を守ること。……お前ら聞けェ、聞けェ！ ……命をかけて諸君に訴えているんだぞ……」

演説が始まると、バルコニー前に集まった約八〇〇名の自衛隊員からは野次と罵声が飛び交い、上空を旋回する何機もの報道機関のヘリコプターの爆音で、三島の声は断片しか聞き取れない。

「諸君の中には一人でも俺と一緒に起つ奴はいないのか！ ……一人もいないんだな。よし！ ……見極めがついた……」

三島は総監室に戻ると、上半身裸になり、短刀で割腹。「介錯するな」と益田が叫んだが、左後ろに立った森田が日本刀を振り下ろした。その森田も自決。残った三人は投降した。

あっけない幕切れであった。翌二六日の新聞各紙の社説も、「三島由紀夫の絶望と陶酔」（朝日）、「三島事件は〝狂気の暴走〟」（毎日）、「〝三島事件〟のもつ反社会性」（読売）、「『三島由紀夫的暴力』を排す」（日経）、「常軌を逸した三島の所業」（サンケイ）と、冷静に受けとめた。

劇的な死と引き換えに何を残そうとしたのか

三島由紀夫は大正一四年一月、農林官僚・平岡梓の長男として生まれた。本名は平岡公威。昭和二二年、東京大学法学部を卒業後、大蔵省に入省したが、翌年には辞職、創作活動に専念した。二四年には『仮面の告白』で作家としての地位を確立。その後、次々に秀作を発表し、四二年には有力なノーベル文学賞候補と

女たちの肖像
政変を逃れてデビ・スカルノのパリ亡命生活

稲葉真弓

日本名の根本七保子を知らなくても、「デビ夫人」と言えばたいていの人が「ああ」とうなずく。元インドネシア大統領スカルノの第三夫人だったのがこの人である。昭和四〇年九月、スカルノが腹心のスハルトに政権を奪われて幽閉され、四五年に死去すると、このトップレディは政変を逃れてパリに亡命、華々しく社交界にデビューを飾った。以来、元大統領夫人として、恋多き女性として、日本の週刊誌に華やかな話題を提供することになるのだが、この人ほどマスコミで雄弁に語られ、格好の標的となったファーストレディはいないのではないだろうか。

▲インドネシアの〝実力者〟だったデビ夫人。

彼女がインドネシア独立の父、スカルノに見そめられたのは昭和三四年のこと。戦後一四年を経たといっても日本はまだ貧しく、日本女性が外国のトップレディになることなど夢のまた夢であった。東京・麻布の建築業者の娘として生まれた根本七保子は当時一九歳、赤坂のナイトクラブでホステスをしていたが、スカルノの招きでインドネシアに渡り、昭和三八年、第三夫人になった。当時、この結婚とインドネシア賠償貿易問題とを結びつけるとかくの風聞もあったが、そうした憶測をかたわらに、デビ夫人は、ある時は大統領のアドバイザーとして日本企業との橋渡しに奔走、ある時は日イ文化交流の折衝役をつとめた。

しかし歴史の奔流は、彼女を一人の女に変える。

大統領の死後、一粒種の娘カリナを連れてパリで暮らすようになったデビ夫人は、スペインの銀行家や独身公爵と婚約したがいずれも解消。この後も艶聞を繰り返し、「結婚と恋は別ですもの。私はいつも恋をしていたいんです」と人々を煙に巻いた。

三四歳の時には、世界的に著名なカメラマン、デビッド・ハミルトン撮影の写真展を東京で開き、セミヌードを披露。「美の探求にとっては、衣装をつけるのもつけないのも変わりありません」という言葉がマスコミをにぎわした。

昭和五八年、娘に祖国を教えたいと永住を決意してインドネシアに帰国。ジャカルタ市内に豪邸を建て、企業関係のコンサルタント、実業家として活躍するかたわら、元大統領夫人として、社交界に華をそえる日々を送っている。

勝者・敗者
「逆転の貴公子」大場政夫の一三ラウンド

阿部珠樹

日刊スポーツ

▲13ラウンド、勝利の瞬間の大場。

この年は日本ボクシング界の世代交代の年だった。一月、史上初めて二階級制覇をはたしたファイティング原田が引退、あとを追うようにライバルだった海老原博幸もリングを去る。J・ウェルター級チャンピオンだった藤猛がリングを去ったのもこの年だった。

代わって世界の表舞台に飛び出したのが若い大場政夫である。昭和四一年にデビューした大場は、歯切れのいいファイトと江戸っ子らしい負けん気の強さで次々に強敵を倒し、ランキングを駆け上がる。そして迎えたのが、この年一〇月二二日のベルクレック・チャルバンチャイとのフライ級タイトルマッチだった。

前日に二一歳になったばかりの若い挑戦者・大場は必殺のハードパンチこそないものの、常に攻勢をとり、勝機と見るや何かに取りつかれたようにラッシュするファイトが身上だった。この試合でも、一ラウンドから早くも攻勢に出てポイントを取る。五ラウンドにはチャンピオンの目尻に大きな傷を負わせる連打。これでチャンピオンは一気に戦意を失い、受け身にまわる。そして一三ラウンド、大場は攻めに攻めて三度のダウンを奪い、KO勝ち。ついにチャンピオンベルトを手に入れた。

下町の貧しい家庭に生まれた大場は、ハングリー精神の権化のようなボクサーだった。猛烈なファイトには満たされない生活への激しい渇きが反映していた。

チャンピオンになってからの大場は、前半ダウンを喫しても、後半、素晴らしいファイトで盛り返し、逆転勝ちすることから、「逆転の貴公子」などと呼ばれた。その最高の試合は、昭和四八年一月のチャチャイ・チオノイ戦。初回に足を捻挫しながら、驚異的な闘志で立ち直り、KO勝ちを収めた奇跡のような試合だった。

それからわずか一三日後、手に入れたばかりの愛車、シボレー・コルベットを運転中、首都高速で大型トラックに激突して死去。激しく疾走し続けた二三年の生涯だった。

市ケ谷駐屯地、衝撃の一一月二五日！
三島由紀夫〝割腹自殺〟の動機と結末

▲三島は演説後、総監室に戻り益田総監を前にして、森田の介錯で割腹自殺した。森田もこれに続いた。写真は自殺直後の総監室。 毎日新聞社

なった。その間、三島文学は政治との接点を求める方向に傾斜。この〝決起〟の二年前に発表された「文化防衛論」（「中央公論」七月号）で「昭和元禄には、華美な風俗だけが跋扈している。情念は涸れ、強靭なリアリズムは地を払い、詩の深化は顧みられない」と心情を吐露している。

時を同じくして、三島は、民間防衛組織「楯の会」を結成、「憂国の士」としての道を進んだ。挙に出たのは、遺稿となった「豊饒の海」第四部「天人五衰」（「新潮」に連載）が家人から出版社に手渡された日であった。

三島の真意はどこにあったのか。文芸批評家の加藤弘一氏は「三島の行動は政治的成算を度外視した文学的自殺だと思います。三島は自分と楯の会を二・二六事件の青年将校になぞらえ、天皇による文化防衛を唱えましたが、現実の昭和天皇は神がかりが嫌いで、二・二六事件では毅然として鎮圧を命じました。自衛隊がサラリーマン化していて、クーデターが不可能なことも交流の中でよくわかっていたはず。三島は劇的な死と引き換えに、現実性のない理念に生命を与え、後世に残したかったのではないでしょうか」と語る。

あれから四半世紀、彼の死はいまだ〝政治〟にも、〝文学〟にも還元できない「謎」の部分を持ち続けている。

▶「楯の会」一周年で挨拶する三島。会は昭和四三年一〇月に結成された。 毎日新聞社

▶演説はおよそ一〇分だった。写真は日本刀（関の孫六）を手にする三島。 毎日新聞社

毎日新聞社

▲**血のメーデー事件に判決(1月28日)**昭和27年の事件に対し東京地裁は騒乱罪を適用、214被告のうち93人に有罪判決。しかし、うち84被告は47年の控訴審で騒乱罪の成立が否定され、無罪になった。

朝日新聞社

▲**末広亭、100年の歴史に幕(1月20日)**東京都内で唯一、昔ながらの畳席の寄席として親しまれていた日本橋人形町の末広亭が「初春特別興行」を最後に閉場した。千秋楽は満員札止めの盛況だった。

▶**餓死寸前のビアフラの子ら(1月15日)**ビアフラの臨時首都オウェリが陥落、ナイジェリア内戦は終結したが、200万人の餓死者を出し、なお難民に飢えと疫病が広がった。

WWP

▼**広島県大久野島で旧陸軍の毒ガスを大量に発見(1月13日)**厚生省が工場跡を本格的に調査した。写真は壕の中の毒ガス入り「赤筒」を調べる自衛隊員。600本の中身はどれも腐敗、毒性は消えていた。

中国新聞社

共同通信社

毎日新聞社

◀**飛行服の中曽根防衛庁長官(1月21日)**長官は、北海道の自衛隊基地視察のため、写真のようなスタイルでジェット練習機に乗りこみ、埼玉県の入間基地を出発した。

▲**輪島が初土俵で幕下優勝(1月23日)**幕下付出しになったこの場所、期待どおり元学生横綱の強さを発揮し、7戦全勝。写真右は支度部屋で祝いの握手をする花籠親方。

昭和45年1月

1(木)●日本道路交通情報センターが設立される。●日本医師会、医療費値上げ求め全国一斉休診。
2(金)●日銀、BIS(国際決済銀行)に正式に再加盟。
3(土)●宮城県で大白鳥を撃ったハンターを取り調べ。
4(日)●帰省で混雑する東名高速で交通事故二九件。
5(月)●公明党と創価学会による藤原弘達らの著作出版妨害事件で、公明党が関与否定の声明。
6(火)●在日米海軍司令部、横須賀基地に働く日本人労働者五〇〇人の整理を通告する。
7(水)●卒業記念に『毛沢東語録』を配った山口県の中学教員、政治的中立侵害として懲戒免職に。
8(木)●日活、経営不振で本社社屋の売却を発表。
9(金)●西武百貨店、関西進出を発表。
10(土)●津久見市の採石場で石灰石が崩落、九人死亡。
11(日)●兵庫県被爆者連絡協議会、西宮市の神社境内で、ゴムで作った胎内被爆児の模型を「十日えびす」の見せ物にした興業社に抗議。
12(月)●厚生省、チクロ入り食品の回収期限を延期。●中教審、大学制度改革試案を中間報告。
13(火)●厚生省、広島県大久野島のガス工場跡を調査。
14(水)●第三次佐藤内閣成立。主要閣僚は留任。
15(木)●安保条約継続を決議した千葉県四街道町、成人式に軍歌のレコード「砲兵の歌」を配布。
16(金)●東京都、大井競馬場の開催日数削減を申請。
17(土)●フジテレビでクイズの賞品にマンション登場。
18(日)●最近の子どもは甘い菓子を敬遠気味と新聞に。
19(月)●富士市長選で公害反対の革新系候補が当選。
20(火)●東京国税局、草月会を脱税容疑で強制調査。●東京の寄席・末広亭、一〇〇年の歴史に幕。
21(水)●北海道、東北でM6・8の地震。一人死亡。
22(木)●男六九歳、女七四歳と厚生省平均寿命を発表。
23(金)●札幌高裁、長沼ナイキ基地訴訟で、農民の異議申し立てを却下(27日、特別抗告を断念)。
24(土)●ソ連のナホトカ新港共同建設に日ソが調印。
25(日)●チクロなどの家庭用検出セットが発売される。
26(月)●総評など一五団体、新潟水俣病共闘会議結成。
27(火)●銚子沖で旧陸軍の毒ガス弾が爆発、漁民火傷。●加藤勝らアイガー北壁の冬季登頂に成功。
28(水)●東京地裁、メーデー事件(27年)に一部騒乱罪の成立を認め、九三人に有罪の判決。●農林省、牧草などにBHCとDDT使用禁止。
29(木)●八丈島南方一五キロ先の明神礁が爆発する。
30(金)●赤・青電話の市内一通話三分制、都心で実施。
31(土)●強い低気圧で全国に被害。死者・不明二五人。

ニュース・ファイル 1970

フォト＋日録で再現する365日

日米安全保障条約の自動延長とともに、学園紛争は急速に衰亡に向かった。高度成長ニッポンは東京五輪に次ぐイベント、アジア初の万国博に酔ったが、その一方で、水俣病に苦しむ人々に象徴される公害問題が、未解決のまま積み残された。

◀**「あまりにも低すぎる」(5月27日)**水俣病補償交渉で一任派が死亡者最高400万円などの上積み案を受諾したため、不満の声が充満した。写真は水俣市のチッソ正門前の抗議集会で挨拶する日吉フミ市民会議会長。

共同通信社

▼日航機から落ちた少年(2月22日)少年は14歳。世界旅行を夢見てシドニー国際空港で日航DC8型機の車輪格納部に隠れ、離陸直後に落ちて失敗した。

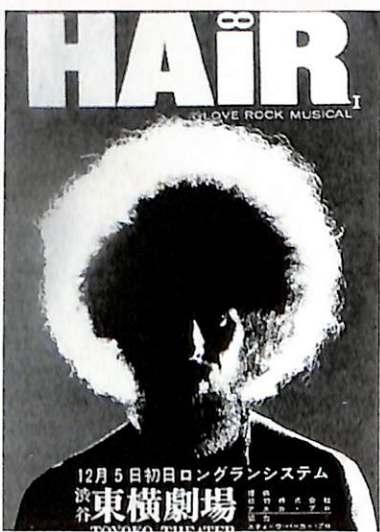
文部省宇宙科学研究所提供

◀昭和石油川崎製油所であわやの火災(2月26日)原油精製装置の熱油ポンプ室付近から出火、周囲には原油タンク群があり、あわやと思われたが、3時間後に鎮火した。

▲初の国産人工衛星「おおすみ」(2月11日)東大宇宙航空研究所が鹿児島県内之浦町で発射。周期2時間24分の長円軌道に乗った。ソ、米、仏に次ぐ4番目の自力衛星。

▼三里塚で第1次強制測量(2月19日)新東京国際空港公団が、成田空港建設予定地の強制立ち入り調査を実施。写真は反対派の団結小屋前で杭を打ちこむ公団職員。

WWP

時事通信社

▲人気ロック・ミュージカル「ヘアー」のメンバー、大麻で逮捕(2月26日)主演の寺田稔らが回し飲みしていたというもの。写真は前年12月、初演の東京公演のポスター。

昭和45年2月

1(日)●チクロ入り粉末ジュースなど、販売禁止に。

2(月)●東京商工会議所、「エコノミック・アニマル」など海外からの日本への悪評対策を協議。

3(火)●政府、核拡散防止条約の調印を決定する。

4(水)●TBS、「時間ですよ」の放映を開始。

5(木)●都教委、授業拒否の高校教員三人を懲戒免職。

6(金)●奈良県吉野の修験道場大峰山寺、開山以来一三〇〇年続いた女人禁制の区域を大幅に縮小。

7(土)●米民政府、沖縄返還要求国民大会参加の社会党・総評代表八一人の沖縄渡航を不許可。

8(日)●時間外保険診療拒否の動き広まる、と新聞に。

9(月)●静岡県登呂遺跡で出火。復元家屋一棟を全焼。
●野坂昭如ら、創価学会系出版物への執筆拒否。
●厚生省、LSDを麻薬に指定。

10(火)●東洋工業、新車の開発期間短縮のため、自動設計コンピュータシステムを初めて確立。

11(水)●初の国産人工衛星「おおすみ」打ち上げ成功。
●いわき市沖で漁船と貨物船衝突。一〇人不明。

12(木)●岐阜県白川村で積雪のため、合掌造りの家屋が倒壊。就寝中の一家四人が死亡する。

13(金)●「ぼりばあ丸」事件(44年1月)の遺族、ジャパンライン社などに損害賠償を請求する。

14(土)●政府、ぶどう酒など九品目の輸入を自由化。

15(日)●大阪森ノ宮駅停車中の電車で手製の爆弾爆発。

16(月)●国鉄、財政再建一〇ヵ年計画を運輸相に提出。

17(火)●茨城県の原研東海研究所でプルトニウム漏れ。

18(水)●通産省、カドミウム汚染を起こした東邦亜鉛安中製錬所の拡張工事認可を取り消す。

19(木)●原爆の記録映画「ヒロシマーナガサキ一九四五年八月」、ニューヨークで初めて公開。

20(金)●閣議、総合農政の基本方針を了承する。

21(土)●東京湾係留中の「第五福竜丸」の刻銘式、挙行。

22(日)●富山地裁、イタイイタイ病訴訟の原告三九四人に対する訴訟救助申し立てを認める。

23(月)●香港で流行の家畜伝染病・口蹄病防疫のため、羽田・大阪空港で旅客の靴底消毒などを開始。

24(火)●大蔵省、持ち出し外貨額の引き上げを決定。

25(水)●自治労、自治体への官僚天下りの実態を公表。

26(木)●ミュージカル「ヘアー」のメンバーが大麻吸飲で逮捕され、大阪公演は中止になる。

27(金)●日本テレビ、低俗と批判されていた「コント55号の野球ケン!!」の打ち切りを決定する。

28(土)●日本精神神経学会が会員に、精神病院での患者虐待に注意するよう警告した、と新聞に。

英伸三(右も)

◀▲沖縄から集団就職(3月9日)この年の沖縄から本土への就職者は1万934人。スーパー、百貨店、弱電メーカーなどから引っ張りだこだった。写真は晴海埠頭に着いた沖縄の少女たち(左)と出迎えの職安や企業の担当者。

朝日新聞社

◀神戸港で貨物船が暴走(3月9日)スウェーデン貨物船「ヒラド号」(1万650トン)が係留場所を変えようとして、岸壁に衝突、10メートルも船首が食いこんだ。この事故で水道管が破裂、付近一帯が断水した。

毎日新聞社

▲公明党の言論出版妨害事件(3月17日)藤原弘達『創価学会を斬る』などの著作に出版妨害をしたと、野党各党有志議員が真相究明集会。写真は説明する藤原弘達氏。

▼カンボジアで親米右派政権誕生(3月18日)訪ソ中の国家元首シアヌークを議会が解任、首相兼国防相ロン・ノル(写真)が実権を握った。シアヌークは、共産勢力とカンプチア民族統一戦線を結成、反撃を続けた。

毎日新聞社

▼松村訪中使節団出発(3月20日)自民党の松村謙三、藤山愛一郎ら11人の訪中議員団が羽田空港を出発。周恩来首相らと会い、日中関係改善をめざして意見交換した。

昭和45年3月

1(日)●玉川通りに都内初のバス優先車線を設置する。

2(月)●市川染五郎が日本人初の主役をつとめる「ラ・マンチャの男」がニューヨークで開幕する。

3(火)●日米、沖縄復帰準備委設置の交換公文に署名。
●東京・浜松町に世界貿易センタービル開業。
●女性誌「an・an」(平凡出版)創刊。

4(水)●福岡地裁、博多駅事件(43年1月)を収録したNHKなどの放映フィルムを強制差し押え。

5(木)●日本船長協会、相次ぐ船長の殉職に、船員法の最後退船義務条項を改正するよう提起する。

6(金)●国公立大で三七六五人が卒業延期、と文部省。

7(土)●新潟市、四歳の女児を胎児性水俣病と認定。

8(日)●青森県で減反希望農家相次ぎ割当目標を突破。

9(月)●東京で公害問題国際シンポジウムを開催する。

10(火)●神近市子、プライバシー侵害で吉田喜重監督「エロス+虐殺」の上映禁止仮処分を申請。

11(水)●大口駐ブラジル総領事を反政府組織が誘拐。
●ボーイング747ジャンボ一番機、羽田到着。

12(木)●国鉄、全国四二線区の合理化案をまとめる。

13(金)●神戸地裁、反戦運動での逮捕による解雇は不当として、元会社員の復職を命じる。

14(土)●大阪・千里で日本万国博覧会の開会式を挙行。

15(日)●警視庁、塩見孝也共産同赤軍派議長らを逮捕。

16(月)●小笠原諸島の高校で復帰(44年)後初の卒業式。

17(火)●国会でプロ野球の「黒い霧」を追及する公聴会。

18(水)●二月二五日以来、スクリュー破損で氷に閉じこめられていた南極観測船「ふじ」が自力脱出。

19(木)●厚生省の西表島学術調査が終わる。

20(金)●国鉄、生産性向上運動(マル生運動)を開始。
●厚生省、スモン患者数は二六六九人と発表。

21(土)●万博見たさに家出の帯広の小学生大阪で保護。

22(日)●中教審が小学校の五歳就学見送り、と新聞に。

23(月)●江田三郎社会党書記長、新ビジョン提出。

24(火)●カネミ油症でカネミ倉庫社長を福岡地検起訴。

25(水)●石牟礼道子、水俣病を描いた『苦界浄土』による第一回大宅壮一賞受賞を辞退する。

26(木)●農林省、競馬開催権を川崎市などへ配分。

27(金)●一〇年で家賃五・四倍、と東京の物価調査。

28(土)●日航、シベリア経由欧州線の自主運航を開始。

29(日)●渋谷で死後一〇日の独居老人が発見される。

30(月)●山口県豊浦町の山陰本線踏切で普通列車とミキサー車が衝突、三五人が死傷する。

31(火)●赤軍派、日航機「よど号」をハイジャック。
●八幡、富士製鉄所が合併し新日本製鉄発足。

▶**社会党大会に機動隊が出動（4月20日）**「帝国主義社民粉砕」を叫ぶヘルメット姿の反戦系グループが会場入り口を占拠。第33回党大会は機動隊出動でやっと開催できた。

毎日新聞社

◀**大阪の天六でガス爆発（4月8日）**地下鉄天六駅建設中の工事現場で漏れていた都市ガスに引火、爆発した。夕刻のラッシュ時だったため死者79人、重軽傷者406人、31戸が全半焼する大惨事となった。

朝日新聞社

▲**ビートルズ解散（4月10日）**ポール・マッカートニーの脱退で、世界中の若者たちを熱狂させてきたロックグループの解散が決まった。写真は最後のレコード「レット・イット・ビー」のジャケット。

▶**株価大暴落（4月30日）**下げ足を早めていた東証株価は、米軍のカンボジア直接介入のニュースをきっかけに急落。201円11銭安で「スターリン暴落」以来の下げ幅を記録した。

共同通信社

毎日新聞社

▲**国鉄・私鉄統一ストで朝の通勤大混雑（4月30日）**全国1100万人の足に影響、新宿駅ホームでは、写真のように電車の窓からホームに飛び降りるＯＬの姿も見られた。

◀**中国が世界で5番目の人工衛星打ち上げ国に（4月24日）**ソ・米・仏・日に次ぎ、重量173キロ、周期114分。写真は天安門前広場で成功を祝う北京市民。米ソが主導する世界の核戦略への影響が心配された。

新華社／中国通信

昭和45年4月

- 1（水）●東京都公害防止条例・同条例施行規則が発効。●第一回日本国際映画祭、大阪で開催（～10日）。
- 2（木）●法務省、反戦運動参加のため送金を停止された南ベトナム留学生の在留延長認可を決定。●第一回全国家庭婦人バレーボール大会開幕。
- 3（金）●「よど号」乗っ取り犯、人質解放後、平壌へ。
- 4（土）●厚生省、水銀殺菌剤配合の石鹸回収を指示。
- 5（日）●安保拒否百人委員会、数寄屋橋で座りこみ。
- 6（月）●岩手県、宮古湾の蠣からカドミウム、と報告。
- 7（火）●古古米を味噌・醤油に、と食糧庁長官が発言。
- 8（水）●大阪市北区の地下鉄工事現場でガス爆発。
- 9（木）●米軍接収の戦争記録画一五三点が返還され、東京国立近代美術館に到着する。
- 10（金）●日本未来学会、国際未来学会議を京都で開催。
- 11（土）●上野など三駅で二〇日間に家出七六五人保護。
- 12（日）●ウ・タント国連事務総長、万博のため来日。
- 13（月）●蜷川虎三、京都府知事に当選（全国初の六選）。
- 14（火）●世界初の電算機搭載の大型タンカー「星光丸」が、石川島播磨相生工場で進水する。
- 15（水）●都知事、四七年度までに都営競輪廃止と通知。
- 16（木）●岩井章総評事務局長にレーニン平和賞と発表。●日立製作所、ＬＳＩ（大規模集積回路）を開発。
- 17（金）●浜松町駅前の世界貿易センタービルで起こる強風に苦情が相次ぎ、国鉄が乱気流を測定。
- 18（土）●法務省、長沼ナイキ訴訟担当の福島重雄裁判長の忌避申し立てを札幌地裁にする。
- 19（日）●中国首相、対中国貿易の四条件を日本に提示。
- 20（月）●日本自動車ユーザーユニオンが発足する。
- 21（火）●厚生省、ＢＨＣによる牛乳汚染で汚染飼料の使用禁止など汚染対策を農林省に要求する。●第一銀行が業務を「電卓」中心に変更と新聞に。
- 22（水）●国税庁、高額所得者を発表。地主が上位独占。
- 23（木）●時化のためアリューシャン列島の沖合で小樽市の漁船が沈没。一八人が行方不明になる。
- 24（金）●過疎地域対策緊急措置法を公布する。●東京電力、硫黄分を出さない世界初の液化天然ガス（ＬＮＧ）の専焼発電を開始する。
- 25（土）●「毒ガスの製造と使用の禁止運動」を進める主婦ら、防毒マスクをつけ、都内をデモ行進。
- 26（日）●自称赤軍派の男、万博の「太陽の塔」に籠城。
- 27（月）●箱根で修学旅行中の小学生に落岩、一人死亡。
- 28（火）●日本農村医学会、新しい農薬中毒増加と発表。
- 29（水）●公取委、千葉などで分譲地の誇大広告を摘発。
- 30（木）●静岡県産のサツマイモから有機水銀を発見。

証言・あの日この日
武田百合子

10月19日（月）　〈観光バスが追い越してゆくとき、窓から男が首を出してゲロを吐いている。私は窓を閉めていたので、ひっかからなかった。バスはかなりのスピードで走り続け、男はまだ首を出して吐き続け、その大量のゲロは風で散乱して、低い乗用車の屋根にかかったり窓硝子にはりついたりしている。別のマイクロバスには、男の団体客が満員に詰めこまれていて、窓から男の手だけが出ては、缶ビールの空き缶や紙袋やみかんの皮を投げすててゆく。……高速道路だから危ない。〉（武田百合子『富士日記』）

「高速道路」というのは中央高速のことだ。東京オリンピックにあわせて首都高を突貫的に作ったように、万博にあい前後して、東京、大阪からハイウェイが各地に延びていく。しかしハードをいくら整備しても、人間というソフトはなかなかそれに追いつかない。　（坪内祐三）

毎日新聞社

▲**シージャック事件（5月12日）**前日来、警官を刺傷させて逃走中の川藤展久（20）が広島港に停泊中の観光船「ぷりんす丸」をライフルで脅して強奪。高松港で乗客解放後、13日、広島港に戻ったところを警官隊にライフル銃で狙撃され、1時間半後死亡した。

▼**日本隊、エベレスト初登頂（5月11日）**2月にカトマンズを出発、苦闘のすえ、日本山岳会隊（隊長・松方三郎）の松浦輝夫（写真）と植村直己が快挙をなしとげた。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲**米軍、カンボジアに侵攻（5月1日）**「共産勢力を駆逐し、米・南ベトナム両軍の安全を守るため」と発表。戦線はインドシナ全域に拡大した。写真は状況説明をするニクソン大統領。

毎日新聞社

▲**プロ野球八百長事件（5月4日）**プロ野球コミッショナー委員会が、西鉄の疑惑選手を喚問。写真はその後記者会見にのぞむ選手たち。うち益田・池永・与田の3人は永久追放となった。

VALLEY DAILY NEWS

▶**米州兵、反戦デモの学生を射殺（5月4日）**オハイオ州の大学で開かれていた米軍のカンボジア侵攻などに反対する集会で、学生4人が死亡。全米の反戦デモは一層激しさを増した。

昭和45年5月

- 1（金）●沖縄・北方対策庁が発足する。
- 2（土）●石田和外最高裁長官、「軍国主義者・無政府主義者・共産主義者は裁判官に不適格」と発言。
- 3（日）●池田大作創価学会会長、公明党との分離表明。
- 4（月）●全国の「かぎっ子」四八三万人と厚生省発表。
- 5（火）●共産党、「日本のこえ」派に接近のソ連を非難。
- 6（水）●著作権法改正公布（死後五〇年に延長）。●二〇歳代の米食派は一六%、と食糧庁調査。
- 7（木）●沖縄住民の国政参加特別措置法を公布する。●シンクタンクの三菱総合研究所が設立される。
- 8（金）●潜水調査船「しんかい」、相模湾で初観測。
- 9（土）●共産同赤軍派の最高幹部、重信房子を逮捕。●東北大グループ、超音波とビデオによる心臓断面の画像記録装置を学会で発表。
- 10（日）●父子家庭は四万七〇〇〇世帯、と実態調査。
- 11（月）●日本山岳会エベレスト登山隊の植村直己と松浦輝夫、エベレストに初登頂（世界六番目）。
- 12（火）●窃盗で逃走中に警官を刺した男、広島港で観光船乗っ取り（乗客解放、翌日射殺）。●医労協、全国五五病院で統一時限ストを実施。
- 13（水）●嬬恋農協が毒性農薬を自主廃棄、と新聞に。
- 14（木）●厚生省、動物性食品の残留農薬調査を指示。
- 15（金）●四月の卸売り物価は前年二月以来連騰と日銀。
- 16（土）●ベ平連系の在日米国人ら約一二〇〇人、米大使館に米軍のカンボジア侵攻抗議のデモ。
- 17（日）●日本自然保護協会と日本野鳥の会が都民集会。
- 18（月）●全国新幹線鉄道整備法公布（6月18日施行）。●国鉄、リニアモーターカーの研究チーム発足。
- 19（火）●筑波研究学園都市建設法を公布。
- 20（水）●黒部市をカドミウム汚染の要観察地域に指定。
- 21（木）●ジュネーブ議定書公布。毒ガス細菌兵器禁止。●心身障害者対策基本法を公布、施行する。
- 22（金）●警察庁、鑑識強化でコンピュータ導入を発表。
- 23（土）●愛知揆一外相、関係閣僚会議で五〇年までにGNPの一%を海外援助にあてると表明。
- 24（日）●民放のテレビCMは、放送基準を一日に一三～二五分超過と朝日新聞調査。
- 25（月）●八百長事件で西鉄の池永ら三投手永久追放に。
- 26（火）●朝鮮総連、朝鮮高生への暴行事件に抗議声明。
- 27（水）●日本初の「国立フィルムセンター」が開館。
- 28（木）●厚生省、栄養基準量発表。一五〇%減が目標。
- 29（金）●いわき市の「黒灰」被害に会社側補償で合意。
- 30（土）●沖縄県志川市で女子高生が米兵に刺され重傷。
- 31（日）●ペルー北部でM7・5の地震。死者七万余人。

20世紀博物館

自転車文化センター

脚力をスピードに変える技術と"遊び心"の結晶

東京・港区

桑原茂夫

撮影／平野美津子

自転車文化センターの展示室には六十数台の自転車が並んでいるが、中には本のイラストでしか見たことのなかった"自転車"もある。たとえば、一〇〇年以上も前のヨーロッパで、新しいモノ好きの男が粋がってみせたという、前輪のばかでかい"自転車"だ。こういう珍しいものを目の前にすると、うまく乗れたとしても、高いサドルに飛び乗ってひょいひょいと進む曲芸師のように見えたんじゃなかろうか、当時の、これも新しいモノ好きの女性たちに、内心あきれられ、舌を出されていたんじゃあるまいか、などと想像をめぐらせてしまう。

しかし、今から見ればずいぶんアンバランスな乗り物でも、自在にコントロールできた時は、自分の感覚が無限に広がっていくようにさえ思えて、まことにエキサイティングな瞬間だったに違いない。

そんな喜びを可能にした、自転車製作の技術が、どんな流れの中から生まれたのかを推理するのも面白いし、このセンターには、その材料が豊富だ。

それにしても、自転車は身近すぎて気づきにくいが、非常に"人間的な"技術の結晶である。動力も人間なら、スピードや方向などのコントロールも直接人間が行う。あだやおろそかにできない技術なのである。

ところが、である。「日本には自転車文化が根づいていないんじゃないか」と当文化センターの渋谷良二さんは嘆いているのだ。その象徴として自転車に冷たい道路行政をヤリ玉にあげ、自転車を歩道に押しやって、自転車に乗る人と歩行者の、両者を危険な目にあわせるなんて、と憤慨し、行政は自転車のことを何にもわかっちゃいない、と怒るのであった。もっともな怒りである。

そこへいくとヨーロッパは……という展開は面白くないのだが、テレビで見るツール・ド・フランスひとつとっても、自転車に対する人々の感覚がまるで違うことを知らされてしまうのだから、まあ仕方ないか。

「零戦」から「三菱十字号」へ

ということで、日本の自転車コーナーへ行くと、ありました、ありました。がっちりとしたスゴイやつが。その名も「三菱十字号」。昭和二二年の製作で、作ったのは三菱重工・津工場。終戦直前まで、当時最高の技術的成果である戦闘機「零戦（ぜろせん）」を作っていた技術陣が、軍事産業から平和産業へという流れにそって自転車を作り上げたのだ。素材も零戦とともに開発したジュラルミンで、車体の鋲打（びょう）ちだって戦闘機そのまま。中心部のフレームが十字にクロスしているので「十字号」の名がついたというが、見る人が見ると、斬新でスマートなデザインだそうで、自転車先進国で結構評判をとったという。さすが！ なのだ。

普段、何気なく乗っている自転車の"人間的技術"の面白さや深さを知ると、がぜん自転車に愛着がわいてくる。二個の車輪を前後に並べて、スムーズに走る乗り物と、それを乗りこなす自分！ 何ともいえぬ至福の時と思えるではありませんか。

▲戦後すぐ製作された「三菱十字号」。

▼昭和に入って活躍したサイドカー。長尺のものを運搬するのに重宝がられた。まさに日本ならではの実用車であった。

◀ほかでは見ることができない珍しい歴史的自転車が並ぶホール。

●自転車文化センター
東京都港区赤坂一―九―三
日本自転車会館三号館
☎〇三―三五八四―四五三〇
地下鉄銀座線虎ノ門駅下車、徒歩七分
開館時間＝一〇時～一六時
休館日＝土・日・祝日
入場料＝無料

▲東京の牛込柳町、排ガス公害で大型車締め出し（6月1日）付近住民の血液や尿から鉛が検出されたため、都も調査を始めた。これを機にガソリンは無鉛化に向かい、50年2月に規制が実施された。

毎日新聞社

▶日航ジャンボ1番機、羽田に到着（6月1日）アメリカ最大の航空機製造会社のひとつボーイング社から引き渡されたもので、747型、361人乗り。7月1日、東京―ホノルル線に初就航した。

日本航空提供

毎日新聞社

▲日韓を結ぶ「フェリー関釜」就航（6月19日）日本初の外洋国際カーフェリー（3800トン）が就航。下関から韓国の釜山まで7時間、週3往復、旅客運賃は1等8640円、2等5040円だった。

毎日新聞社

◀反安保集会に77万人が参加（6月23日）安保条約が自動延長となったこの日、全国各地でデモが行われた。写真は東京の八重洲通りでのべ平連によるフランス・デモ。

朝日新聞社

▲茨城県波崎沖にゴンドウクジラ出現（6月10日）地元の白魚漁の小型船団が沖合2キロに約100頭を発見、うち48頭を海岸に追いこみ、引き揚げた。40年ぶりの珍事だった。

CORBIS BETTMANN／PPS

▼ワールドカップでブラジル優勝（6月21日）サッカー世界選手権（ワールドカップ）決勝戦でイタリアを4対1で破り、通算3回目の優勝をはたした。写真はカップを差し上げて喜ぶペレ。

昭和45年6月

1（月）●公害紛争処理法を公布（11月1日施行）。●航空機上で行われた犯罪等に関する条約公布。
2（火）●通産省、ハイオクガソリンの鉛分半減の方針。●マンション投資商法の日本住宅総合センター倒産（投資家一三〇〇人の被害約一九億円）。
3（水）●京大病院看護問題研究会『夜勤看護婦白書』発表。夜勤回数月九回以上が九三％。
4（木）●国費による歌舞伎俳優研修制度が発足。●東大病院新病棟移転に反対し、前日から籠城の青年医師連合などの六三人が逮捕される。
5（金）●東海道新幹線が経費率六一％で最少、と国鉄。
6（土）●べ平連、乗降客二千余人と新宿駅で座りこみ。
7（日）●山田宏臣、走り幅跳びで八㍍〇一の日本新。
8（月）●日産、日本グランプリ出場中止（大会中止へ）。
9（火）●政府、物価安定の具体策二五項目を決定。
10（水）●消防庁、救急車を「ピーポー」音に変更と通達。
11（木）●石川県の北陸鉱山から流出したカドミウム、小松市梯（かけはし）川流域の水田で高数値を検出。●北海道三井芦別（あしべつ）鉱業所でガス爆発。四人死亡。
12（金）●離婚原因一位は性格の不一致、と厚生省調査。
13（土）●厚生省、種痘ワクチンによる被害続出に、武田薬品製剤の使用中止を全国に指示する。
14（日）●新左翼諸派、全国一一六ヵ所で反安保集会。
15（月）●森永ひ素ミルク事件（30年8月）で、森永側の弁護団が初めて原因を粉ミルクと認める。
16（火）●拓殖大空手愛好会の学生がしごきで死亡する。
17（水）●最高裁、電柱への無断ビラ張りに対する軽犯罪法適用は合憲と判決。
18（木）●「運動時間ない」が五二・五％、と日体協調査。
19（金）●下関と韓国の釜山（プサン）を結ぶ関釜（かんぷ）フェリー就航。
20（土）●四〇代父親の小遣い月六三四六円、と新聞に。
21（日）●全国予防接種被害者父母の会、初の全国大会。
22（月）●日米繊維交渉、ワシントンで開始（～24日）。
23（火）●日米安全保障条約、自動延長（全国で反安保統一行動、約七七万人が参加）。
24（水）●最高裁、企業の政治献金は合法と判決。
25（木）●国立がんセンターの平山雄（たけし）、喫煙者の癌（がん）死亡率は非喫煙者の二倍、肺癌は七倍と発表。
26（金）●外貨持ち帰り限度一〇〇〇㌦に、と大蔵省発表。
27（土）●東京畜犬会社が倒産。出資法違反で捜索する。
28（日）●川崎市でダンプカーが横転、こぼれた高熱のアスファルトでバイクの高校生二人が死亡。
29（月）●万博国連館で衛星による電送新聞受信に成功。
30（火）●海上自衛隊、初の世界一周遠洋航海に出発。

ベストセラー
『誰のために愛するか』はじめ〝心の拠りどころ〟本が続出

万国博が開かれ、好況の中、経済効率を求めてひた走り始めた世の中を反映したのだろうか、この年のベストセラー上位は、万国博ガイドブックをのぞくと、心の拠りどころを求める本で占められた。

ミリオンセラーとなった、曾野綾子の『誰のために愛するか』(青春出版社)は、愛とは「その人のために死ねるかどうか」だと大胆に言い切り、不安に揺れる人々から多くの支持を得た。

この本の成功については、出版社(編集者)による読者ニーズの分析と、それに基づいて組み立てられた編集戦略が、みごとに功を奏した好例として、後々まで語り継がれることになった。

同じくベストテンに自著を二冊も連ねた高田好胤は当時、奈良・薬師寺の管長だったが、宗教的なにおいを消して、軽い口調の説教そのままに、読者に親しく語りかけ、共感を得た。

また、これもミリオンセラーとなった塩月弥栄子の『冠婚葬祭入門』も、核家族化が進み社会生活の輪郭があいまいになりつつあった時、まさに、頼りになる指針としての役割を期待されたのだった。「衣食足りて礼節を知る」ということはわかっているのだけれども、ではその「礼節」とは、と問われると、すでにかなり不明になっていたのである。

一方、この頃から旅行ブームが訪れ、特に若い女性を旅行に駆り立てたが、そんな傾向をいち早く察知して、新しいタイプの女性誌「an・an」が平凡出版(現・マガジンハウス)から創刊された。それまでの生活雑誌とは完全に一線を画した女性誌の衝撃的な登場だった。

●昭和45年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	『日本万国博公式ガイドマップ』(講談社編/日本万国博覧会協会)
2位	『日本万国博公式ガイド』(電通編/日本万国博覧会協会)
3位	『冠婚葬祭入門』(塩月弥栄子/光文社)
4位	『誰のために愛するか』(曾野綾子/青春出版社)
5位	『創価学会を斬る』(藤原弘達/日新報道出版部)
6位	『私の人生観』(池田大作/文藝春秋)
7位	『心』(高田好胤/徳間書店)
8位	『続冠婚葬祭入門』(塩月弥栄子/光文社)
9位	『スパルタ教育』(石原慎太郎/光文社)
10位	『道』(高田好胤/徳間書店)

全国出版協会出版科学研究所

▲『日本万国博公式ガイドマップ』(200円)

▲『誰のために愛するか』(430円)

▲『冠婚葬祭入門』(330円)

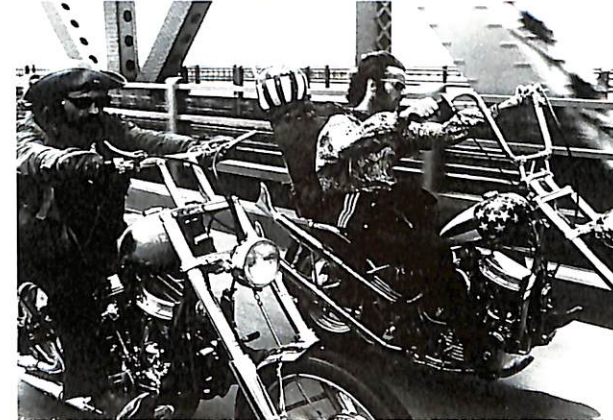
スターと名場面
藤圭子、緋牡丹お竜とともに若者が見た〝トンネル〟の出口

この年、〝薄幸〟と笑顔など滅多に見せない〝暗さ〟を前面に押し出したスターが登場した。

歌手の藤圭子である。「女のブルース」「圭子の夢は夜ひらく」「命預けます」と立て続けに発表された歌は、流しの歌い手だったという藤圭子の、決して明るくはないサクセスストーリーとともに、六〇年代後半の学園紛争や反戦運動などで挫折感を味わった若者たちの心をとらえたのである。

映画でも、任侠の世界から逃れられない宿命を引き受け、健気に生きる美しい女、藤純子(現・富司純子)演じる、緋牡丹お竜が人気を呼んだ。特にこの年公開されたシリーズ第六作の、加藤泰監督「緋牡丹博徒・お竜参上」は、藤純子のどこか陰のある美しさを際立たせた作品であり、新たなファンも獲得、その人気を定着させた。「娘ざかりを渡世にかけて……」と藤純子が歌う時、映画館で起こる手拍子は若者たちのやるせなさをストレートに表していた。

外国映画の「イージー・ライダー」も、どこか似た雰囲気を漂わせて、若者たちの心を引きつけた。そこに見たのは、世代間のギャップという装いを持った、社会からの「脱落＝ドロップアウト」の実際だったのではないだろうか。

©1969 RAYBERT PRODUCTIONS.INC

▲「イージー・ライダー」デニス・ホッパー監督/左＝デニス・ホッパー、右＝ピーター・フォンダ
ビデオ発売＝ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメント 2480円(税込)

▼暗さが魅力、藤圭子の「圭子の夢は夜ひらく」。

BMGビクター提供

▶「緋牡丹博徒・お竜参上」(東映)。菅原文太と藤純子の印象的な道行シーン。

東映提供

モノ語り'70
「電子ジャー」「トミカ」「缶コーヒー」今も売れ筋のロングセラー商品

▲ミニカーまで国産車の時代　ミニカー市場でそれまで圧倒的に優位を占めていた外国製、なかでもイギリスの「マッチボックス」に対抗して、国産車主体のミニカーを玩具メーカーのトミーが開発し「トミカ」と名づけて販売、ヒットさせた。発売時は「コロナマークII ハードトップ」など6種、各180円。その後も車種はふえ続け、今も人気のロングセラーとなっている。

▶トイレが来るようになった　高齢化社会の進行とともに、福祉にかかわるモノも、積極的に開発・販売されるようになってきた。積水化学の「ポータブルトイレ」も、この年登場した画期的な商品である。トイレに行くという発想を根底から変えるもので、多くの人に喜ばれ、今にいたるまでのロングセラーとなっている。当時の価格は8200円。現在は9800円で販売されている。

◀缶コーヒーは世界初だった　万国博会場で上島珈琲(現・UCC上島珈琲)が自信を持って売り出した、世界初の缶コーヒー(80円)が大成功をおさめた。しかし、発売にこぎつけるまでが大変。コーヒーエキスを缶の中に長く入れておくと化学反応を起こしてしまうという難題を解決しなければならなかったからだ。これを新しいコーティング技術の開発でクリアー、商品化に成功したのだ。

◀「もう鹿を殺さなくてもいい」だって！　東レが開発したスエード調の新素材「エクセーヌ」のデビューがこの年。秋のパリ・オートクチュール・コレクションで、サンローランやカルダンなど超一流のデザイナーたちに、ニューモード素材として取り上げられた時である。天然素材の鹿皮に代わるものとして、顕微鏡的にも鹿皮とそっくりのエクセーヌは、実に革命的な新素材だったのである。

昭和50年代の
愛媛のかんきつ
愛媛県青果農業協同組合連合会

▲自由化との闘いから生まれたジュース　愛媛青果連の「ポンジュース」は、100パーセント天然果汁というふれこみで大いに販路を広げたが、オレンジ類の輸入自由化という脅威にさらされた柑橘類生産者が、競争に打ち勝とうと、先手を打って開発・販売した。当時の青果連のパンフには、「決起してこの戦列に加わり、善く闘う者のみが、国際競争力を備え……台風一過後、輝く太陽を仰ぐ栄光を与えられよう」という檄が飛ばされていた。現在は1リットル300円だが、当時の価格は不明。

▲いつも温かいごはんが食べられる　核家族化が進み、女性の社会進出もふえてきたこの時代に、家事の省力化をはかる家庭電化製品は大きな意味を持った。象印マホービンの「電子ジャー」もそのひとつ。いつでも温かいごはんが食べられるというメリットは大きく、1万円という高価格にもかかわらず、発売数ヵ月たって人気急上昇、翌年翌々年と連続してヒット商品にランクづけられた。温度の微妙なコントロールを実現した点でも特筆モノの商品である。

▼いつまでも使えそうな不思議なチューブ　当時、歯磨き市場で苦戦を強いられていたライオンが「エチケットライオン」に続く新開発商品として世に送り出したのが、この「ホワイト&ホワイト」だった。歯の汚れをとり、表面を磨き上げる効果を持つ95グラム入り120円のこの歯磨きは、清潔志向が生まれていた市場に大歓迎された。また容器のチューブ素材に、これも新開発の、折れ曲がらないラミネートを用いたことも、ユーザーを十分引きつけたのである。

▶昭和五一年、比叡山の山裾、八瀬の自宅付近で家族と。和歌子夫人とは昭和三五年にボストンで結婚。夫人は評論家、翻訳家として活躍後、政界に。 渡部雄吉

人物クローズアップ

広中平祐(三九)

「敗北」を転機に力みが消え日本人二人目のフィールズ賞に

▶昭和六二年六月、長男・浄のハーバード大学卒業式で。左からえり子、平祐、浄、和歌子の広中一家。

九月三日、「朝日新聞」朝刊社会面に「広中氏にフィールズ賞 代数幾何学の難問解く」の大見出しが躍った。四年ごとに開かれる国際数学者会議で選出されるフィールズ賞は、数学部門のないノーベル賞に代わるといわれるほどの賞である。受賞者資格として、四〇歳未満という年齢制限があり、広中平祐(三九)には最後のチャンスだった。「代数多様体の特異点の解消および解析多様体の特異点の解消」が授賞対象となった業績である。日本の頭脳海外流出第一号と言われた、昭和二九年の小平邦彦に続き、日本人では二人目の受賞だった。

昭和六年、山口県由宇町で生まれた広中は、京都大学を卒業すると、フルブライト奨学金を受け、二六歳で単身渡米した。世界中の英才が集うハーバード大学大学院で研究できるとあって、広中は希望に燃えた。だが一方で、「一生懸命やっても結果が出なかったら、研究どころか、生活さえままならないかもしれない。考えるとたまらない気持ちになった」という不安も常に感じていたという。

渡米当初、広中はこれといった研究成果をあげられなかった。そんな広中が輝き出したきっかけは、ある「敗北」だった。二年間取り組みながらどうしても解法が見つけられないでいた課題を、若い学者が、先んじて解いたのである。広中は完敗だと感じた。なぜならその若い学者が解法に用いた定理は、数学者なら誰でも知っているものだったからだ。

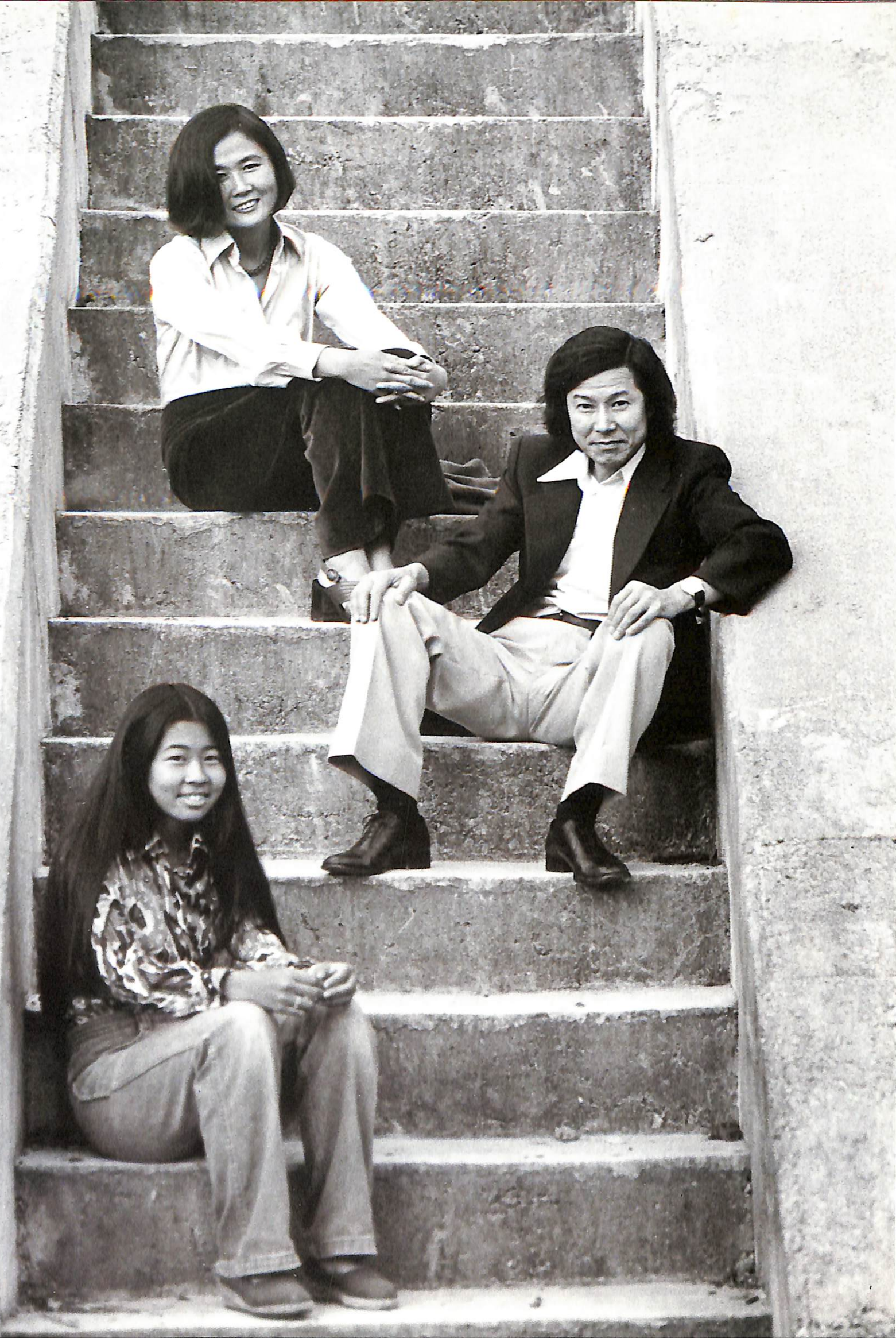
なぜ自分はこの定理を見落としてしまったのか。

「一刻も早く認められようとあせるあまり、むやみに力んでいた。その力みが視野を狭め、ひとつの理論にこだわり続けた」ために、袋小路にはまっていたのである。

この「敗北」を転機に、広中は広い視野を持って研究することにつとめた。その結果、昭和三九年の米国リサーチ・コーポレーション・プライズ受賞を皮切りに、積み重ねた業績がフィールズ賞につながった。そして昭和五〇年の文化勲章受章を機に、頭脳の海外流出を嘆く日本側の声にこたえるように、ハーバード大学と兼任で母校・京大の教授に就任。さらに平成八年には郷里の山口大学学長に就任した。

「数学は、自己の内面への旅。だから、数学者は組織のトップには向かないと思っていた。だがフィールズ賞受賞で世界的に業績が認められ、広く人と交わることで、人間が大好きという、自分でも気づかなかった一面を発見できた。今回、外面への旅ともいえる大学学長を引き受ける気にさせた原点に、フィールズ賞があるのかもしれない」と、広中は現在の心境を語っている。

▲昭和45年9月1日、フィールズ賞授賞式会場で、アラン・ベーカー(左)、ジョン・G・トンプソン(右)とともに。

決定的瞬間

「平和を口にしただけで」南ベトナムの恐怖〝虎の檻〟の囚人たち

その存在がひそかにささやかれていた〝虎の檻〟が、ついに発見された。それはサイゴン（現・ホーチミン市）の東南約二二四キロ、南シナ海に浮かぶコンソン島（現・コンダオ島）の刑務所第四獄舎の中にあった。この雑居房の凄惨さは、ナチスのアウシュビッツを思わせるほどで、ロンドンの「ザ・タイムス」紙は、「今や南ベトナム政府の正体が明らかになった」と報道した。

一九七〇年六月二〇日から七月四日まで、アメリカ下院は超党派の議員一二名からなる「東南アジア調査団」を現地に派遣した。南ベトナム政府やアメリカ大使館などの妨害をはねのけ、〝虎の檻〟に到着したのは、そのうちの四名、A・ホーキンス議員、W・アンダーソン議員、T・ハーキン専門委員、そして世界キリスト教会議ベトナム担当委員で通訳のドン・ルースである。

四人は事前に〝虎の檻〟から出獄した学生たちに接触、獄内の情報を入手していた。コンソン島の刑務所は、別名「ホーチミン大学」と呼ばれていた。もともとは一八六二年フランス人によって開設されたものだが、ここから釈放された後、フランス支配からの解放を求めて結成された民族統一戦線（ベトミン）に参加する人々が数多く輩出したからだ。フランスに代わってアメリカが乗り出してきた後も、「悪魔の島」という異名で人々に恐れられていた。

当然、南ベトナム政府や当局はその事実をひた隠しにし、アメリカ公共公安部発行の『概説書』には、コンソン島刑務所は「同施設は進歩的で近代的に運営され、アメリカ国内の刑務所と比較しても高い評価に値する矯正施設である」と記されてあった。

しかしその実態は目にあまるものだった。この年五月二五日、同刑務所から釈放された五人の学生たちが発したアピールは、「この部屋は長さ三メートルで、幅約一・五メートル。この狭い檻に五人が放りこまれ、両足に足かせをはめられ、昼夜を問わず長さ四、五メートルの金属製の棒に結びつけられていた。まるで餌をもらうために主人を待つ動物のような姿だった。コンソン島ほど人間の生命が安っぽく扱われているところは、決してほかにないだろう」と、その惨状を伝えている（「世界」一九七〇年九月号）。

〝虎の檻〟は小さな石の部屋で、天井には鉄格子がはめられていた。その数は七〇ほどで、檻と檻の間は厚さ一メートル以上の壁で仕切られ、約三〇〇人の人々が押しこめられていた。囚人の一人は「平和を口にしただけでここに入れられた。平和はベトナム人全部が求めている。ぼくらはただ平和を求めているだけなのだ」と語ったという。

後にアメリカで作成された調査団の七〇ページにわたる公式報告書には、このいまわしい事実に触れた部分は八行にすぎなかったが、ハーキンはその実態を公表、世界を驚かせた。

▶廊下の両側に檻が並んでいる。囚人が食物を要求すると、看守が上から夏は石灰、冬は水をあびせかけた。

Thomas Harkin TIME LIFE PPS(左の写真も)

▶囚人たちはしゃべることも、動くことも、立ち上がることも許されなかった。食事や水は極度に乏しく、朝になるとバケツに放尿して、みんなで分けて飲んだという。

◀パッチワークと直線裁ちが多用されている本格的なフォークロアのコート。ヒマラヤ風。このほかにも、中国ルック、海賊ルックなど、自由な感覚をうたいあげた作品は、世界中から注目された。

新正卓　文化女子大学図書館提供

美の出会い

高田賢三が颯爽とデビュー！パリが注目したブティック「ジャングル・ジャップ」開店

一九六〇年代後半、世界はベトナム戦争や中国の文化大革命などで大きく揺れていた。そしてパリでは、六八年（昭和四三）に学生・労働者によるゼネストが起こった。時代の風を敏感に察知した若者たちは、新たな価値観を求め、次々に若者文化を生み出していったのである。

こうした動きは、ファッション界にも大きな変化をもたらした。長い間、世界の憧れの的であったパリのオートクチュールに、若者たちはあきあきしていた。日本人デザイナーの高田賢三が、オートクチュールにかわるプレタポルテの旗手として登場したのは、こうした時代の転換期だった。

パリに滞在して五年、ファッション関係の雑誌やメーカーにデザイン画を売っていた高田は、一九七〇年（昭和四五）五月七日、パリのギャルリー・ヴィヴィエンヌにブティック「ジャングル・ジャップ」を開いた。オープニングショーには日本の浴衣地や紬、パリの蚤の市で見つけた古いリボンや古ぎれなどを使って、急拠七〇点ほどの作品を用意した。

ショーの後、すぐに麻の葉柄のワンピースが「エル」の表紙を飾り、ついで「マリー・クレール」「ジャルダン・デ・モード」「ヴォーグ」などにも取り上げられた。そして三ヵ月後の秋・冬コレクションでは大量の注文が殺到。高田賢三のパリ・デビューは大成功だった。

ケンゾー・モードは、美しく裁断し体にフィットさせる西洋の伝統的な服に抵抗することから始まった。彼の言う「反抗裁ち（直線裁ちや平面カット）」のゆとりある服を「アンチ・クチュール」と名づけた。そしてルーマニア、ギリシャ、アフリカ、中国などの民族衣装をテーマに、ケンゾーといえばフォークロアといわれる代表的モードを次々に発表。東西を融合した普遍的なデザインは、単なる日本趣味から脱したものだった。

一九七三年には、三宅一生がパリ・プレタポルテ・コレクションに作品を発表した。一枚の布から発想される「間」を感じさせる服は、これまでの西洋の概念にない新鮮な感覚を呼びおこし、「動く彫刻」と言われ、高い評価を得た。また一九八一年には川久保玲・山本耀司が同コレクションに参加し、作品を発表。世界は日本人デザイナーの動向に注目するようになった。

岩田弘行　文化女子大学図書館提供

▲アンリ・ルソーの「ジャングルの夢」が壁に描かれたジャングル・ジャップ店内。右がケンゾー。モデルの衣装は白に紺の浴衣地。

文化女子大学図書館提供

◀「エル」1970年 No.1278。ケンゾーの麻の葉柄のワンピースが表紙を飾った。

「現場」を歩く

南アルプス

「環境破壊」スーパー林道の現実

山本徹美

南アルプスのスーパー林道と北岳周辺を示す地図（戸台、駒ヶ岳、山梨県、南アルプススーパー林道、長野県、北岳、芦安村、静岡県）

南アルプススーパー林道という名から私は森林を抜けるハイウェイのような道を想像していた。

甲府駅でスーパー林道路線のバスに乗る。発車後四〇分くらいして、バスガイドが「山道ですから、前後左右に大きく揺れることもございます」と注意。その言葉に誇張はなかった。S字カーブの連続で、車は弧を描くようにして坂道を登り、たえず身体が揺れる。道は、フレア状に拡がった山脈の裾を縫うように、南アルプスを乗り越えるべく造られているのだ。幅員は四メートルそこそこ。車両と出会ったら、どちらかが後退して、譲る。バスガイドが添乗しているのはバックする際の安全確保のためだった。

やがて夜叉神峠に到着。標高一七七〇メートルの展望台正面に北岳が位置している。その大岩壁「バットレス」（胸壁）は山男が一度は征服を夢見る。かつて山登りをしていた私は、まさか背広で眺めようとはと苦笑いした。バスの乗客はすべて登山装備をしている。そのうち七割は五〇代から六〇代、半数が女性である。五二歳の婦人が言う。

「この歳で北岳に登れるなんて、ひと昔前では想像もできなかったでしょうね」

林道が中高年クライマーに喜びと楽しみを提供したというべきか。

▲現在の北沢峠。海抜2032メートル。長野県長谷村と山梨県芦安村の境にある峠で、ここからの北岳の展望は素晴らしい。

「林道は村の生命線」

南アルプススーパー林道とは、山梨県芦安村桃ノ木橋を起点として夜叉神峠、広河原、北沢峠、長野県長谷村戸台、平へと続く五六・九キロの道のりをさす。森林開発公団によって昭和四二年一二月工事着工。ところが、四八年、自然保護団体が環境破壊につながるとして工事の中止を環境庁などに訴える。環境庁では現地視察のほかに自然環境保全審議会を開くなど検討を重ねる。その間、工事は中断した。

これに対して地元の芦安村と長谷村の村民は工事再開を嘆願した。望月義清・芦安村村長が語る。

「林道開通は村の願いでした。林道なしではとうてい山の中へは入って行けない。植林、治山堰堤工事もままならない。私たちにとって山は近くて遠い存在でした。道さえあれば就労の機会がふえる。山登りをしに都会から登山家や観光客がやって来るだろうし、その受け皿となる宿泊施設の経営も成り立つ。林道ができれば村が活性化するわけで、その意味では生命線と言ってもよかった」

五年間の審議を経て、五二年、工事は再開。五五年六月、開通式が行われた。総工費四八億八〇〇〇万円。

「山は近くなりました。村には活気が出てきました。過疎化に歯止めがかかったばかりか、都会からの流入人口がふえたんです」（望月村長）

村の人口約六〇〇のうち三分の一が東京など都市からの移住者だという。

自然保護の運動も一応の成果をおさめた。広河原から北沢峠間はマイカー乗り入れ禁止となったし、午後七時以降午前五時まで、全車両通行禁止など、排気ガス対策がとられている。現在のところ高山植物などに悪影響は認められないという。

◀山梨県北沢峠付近での、南アルプススーパー林道工事風景。

山梨日日新聞社

赤軍派、日本初のハイジャック！ 日航機「よど号」乗客の122時間

▲3月31日午前9時すぎ、福岡空港に着陸。給油後人質23人を降ろし、犯人にソウルを平壌と誤認させる作戦に従い、韓国へ飛ぶ。 毎日新聞社

日本初のハイジャックは、赤軍派の学生らによるものだった。闘争の最大テーマだった「七〇年安保」を前に学生運動はすでにピークをすぎ、その一部は突出して孤立化し、あるいは海外に突破口をみいだそうとしていた。これ以降、学生運動は急速に退潮していくことになる。

日本刀を振り回す犯人と冷静だった人質の乗客

「赤軍派と称する、学生らしい十数人に日本刀を突きつけられ、北朝鮮の平壌へ行けと命じられた」

三月三一日午前七時三三分、第一報が羽田空港管制室に入った。富士山近くを飛行中の、羽田発福岡行き日航機ボーイング727「よど号」（乗員七人、乗客一三一人）の石田真二機長からの連絡だった。日本航空史上初のハイジャックは、こうして幕を開けた。

犯人は赤軍派の田宮高麿ら九人。前年の一一月、山梨県の大菩薩峠で武闘訓練をしていた同派の学生らが大量に検挙され、後に同派議長の塩見孝也も逮捕された。今回のハイジャックは「世界同時革命」に備える「革命の根拠地づくり」のために、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を選んだという説、逮捕状が出て身動きのとれなくなったメンバーが、とりあえず北朝鮮に脱出するという国外逃亡説などが当時流された。

「よど号」に同乗していた聖路加病院内科医長の日野原重明氏（現・聖路加看護大学学長、八六）は、「羽田を飛び立ってから約一〇分後、男たちが行動を起こ

赤軍派、日本初のハイジャック!
日航機「よど号」乗客の122時間

▲4月3日、平壌空港到着後、北朝鮮の当局者から、携帯した武器のチェックをうける田宮高麿ら。毎日新聞社

した。その時、最前列の座席にいた五〇歳くらいの元気な男性が、操縦室に入っていこうとするグループに飛びかかったが、刀のさやで殴られた。私は後ろから二つ目の通路寄りの座席にいたが、通路の中央部で刀を抜いた二人の男を見て、

▶「よど号」ハイジャック犯が持ちこんだ日本刀、ダイナマイトの数々。毎日新聞社

『気が狂ったのか』と、どきりとした」と事件を振り返る。

ハイジャックは昭和四二年頃から世界各地で多発。この年の二月にも、イスラエル行きのスイス航空機が謎の爆発を起こして、乗員と乗客全員が死亡する事件があったばかりだ。

日航機は給油を理由に福岡空港に着陸して、病人と老人、子ども一二三人を降ろした後、午後一時五九分、北へ向けて飛び立った。

午後三時一六分、韓国の金浦(キムポ)空港に着陸。北朝鮮兵に擬装した精鋭部隊三〇名が、歓迎のプラカードを持って出迎えたが、犯人たちに「ここは平壌ではない」と見破られてしまい、丸三日間の膠着(こうちゃく)状態におちいる。

この間、機内はエアコンがとまり蒸し暑く、食事と水は少量しかなかったが、乗客たちは落ち着いていた。

四月三日午後二時一八分、身代わり人質を申し出た山村新治郎運輸政務次官と引き替えに、乗客とスチュワーデス全員が七九時間ぶりに解放された。

同日午後六時四分、「よど号」は石田機長ら乗員三人と山村次官、犯人九人の計一三人を乗せて金浦空港を飛び立ち、七時頃に北朝鮮領内の空港に着陸。

翌四日、北朝鮮側は板門店(パンムンジョム)を通じて機体と乗員らの帰国許可を伝えてきた。

五日、午前七時一〇分に平壌郊外の空港を飛び立った「よど号」は同九時一〇分、一二二時間ぶりに羽田空港に帰還し、拍手と歓声で迎えられた。

この事件がきっかけとなって、空港には金属探知機が備えられ、ハイジャック防止法が同年六月に施行された。

▲3月31日午後3時16分、「よど号」はソウル郊外の金浦空港に着陸。空港は平壌の飛行場に似せて擬装されていたが、犯人は見破って機内に籠城。 WWP

つのる一方の望郷の念、赤軍派の帰国問題が浮上

さて、事件の後日談である。「男、山村新治郎」の勇名を馳(は)せた山村次官は、運輸大臣などをつとめたが、平成四年二月、次女に刺殺されるという悲劇を迎えた。

ハイジャック犯九人のうち、吉田金太郎は昭和六〇年に北朝鮮国内で死去。柴田泰弘は六三年、日本に入国中逮捕され、懲役五年の実刑を受けて平成六年に出所している。リーダー格の田宮高麿はその翌年に心臓発作で死去。田中義三は平成八年にカンボジアで偽造米ドル札を所持していたとして逮捕された。北朝鮮に残っているのは五人になった。

吉田をのぞく八人はいずれも日本人女性と現地で結婚しており、合わせて二〇人の子どもがいるという。残された小西隆裕、若林盛亮、赤木志郎、岡本武、安部公博の五人と家族の多くは日本への帰国を希望している。

「子どもたちだけは、何とかして日本に帰してやりたいんや」と、田宮は亡くなる直前まで言い続けていたという。その子どもたちは、「帰国」に備えて、母親から日本語や日本の歴史、習慣などを学んでいる。日本国内の支援活動もあって、今や帰国問題が焦点となってきた。

もう一方の主役「よど号」は当時、日航が東亜国内航空(現・日本エアシステム)からリースしていた機体だった。その後も日本の空を飛び続けた後、昭和五一年にドイツの航空会社に売却され、現在はアメリカの航空会社ビスカウント・エアー・サービスに所属し、現役で活躍している。

フォト＋日録で再現する365日

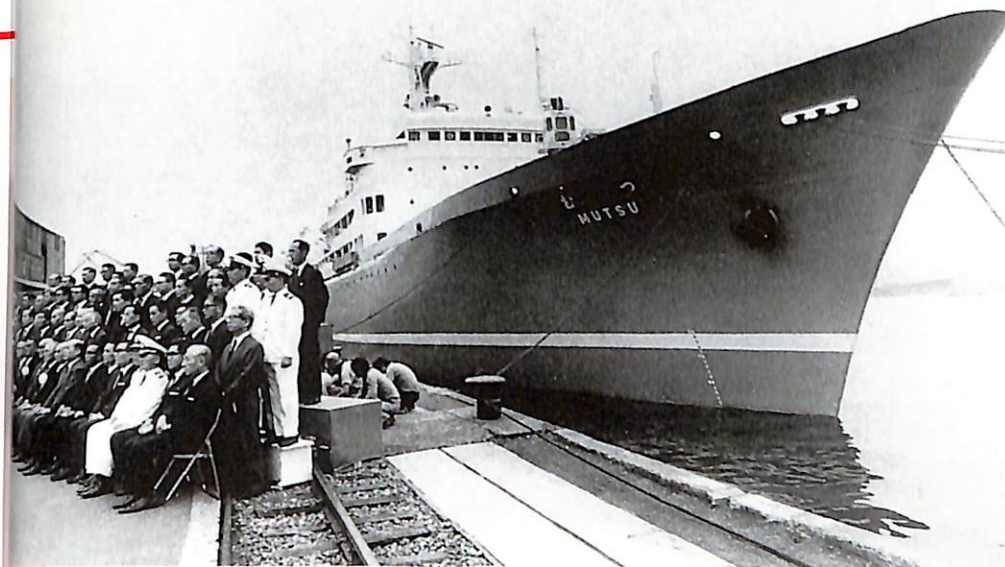
◀▼日本初の原子力船「むつ」、母港に帰還（7月13日）前月、東京湾で補助エンジンによる試験航行に成功、この日、青森県むつ市大湊港で引き渡し式が行われ（左）、8月に原子炉容器が積みこまれた（下）。

毎日新聞社

毎日新聞社

▶家永教科書裁判に朗報（7月17日）東京教育大教授・家永三郎が起こした検定処分取り消し請求訴訟で、東京地裁は原告側の言い分を認める判決を下した。写真は激励の寄せ書きを手にする家永教授。

共同通信社

▼東京の高校で初の光化学スモッグ（7月18日）運動中の杉並区の女子生徒が突然吐き気などを訴え、43人が病院に運ばれた。都はこれを初の光化学スモッグと推定した。

▼戦艦「陸奥」の砲塔引き揚げ（7月23日）昭和18年に山口県東和町の和田沖で、原因不明の爆発で沈没していたもので、引き揚げられたのはその4番砲塔。多数の遺骨・遺品も発見、艦尾は翌年引き揚げられた。

朝日新聞社

▲古代パピルス船「ラー2世号」、大西洋横断に成功（7月12日）ヘイエルダール博士らの乗る葦製の帆船で、この日、西インド諸島のバルバドスに到着。写真は5月にモロッコを出港した時の様子。

昭和45年7月

1（水）●日航ジャンボ旅客機、ソウル便に初就航。●本州四国連絡橋公団が発足。本四架橋を建設。
2（木）●橋本運輸相、一〇〇万トンタンカー建造を諮問。
3（金）●映画「イージー・ライダー」三三週のロングラン。
4（土）●日航、ハイジャック防止のため、国産金属探知機を東京国際空港の国内線出発口に設置。
5（日）●四四年の労災事故死は六二〇八人、と新聞に。●レコード「走れコウタロー」（ビクター）発売。
6（月）●教育でのコンピュータ利用国際セミナー開催。
7（火）●奈良県明日香村民、景観保存史跡指定による生活規制に反対し期成同盟を結成する。
8（水）●宗教法人は二・六種の事業を経営と文化庁。
9（木）●食糧庁、カドミウムの安全基準を超える地区の米は購入しないとの方針を表明する。
10（金）●札幌高裁、長沼ナイキ訴訟で、福島裁判長が青法協会員だとする国の忌避抗告を棄却。
11（土）●共産党、宮本委員長宅盗聴で警察庁に抗議。
12（日）●文化財保存全国協議会が、結成総会を開く。
13（月）●岩手県経済連の元職員、女性の三一歳定年は女性差別で違憲と盛岡地裁に告訴する。
14（火）●閣議、日本は「ニッポン」に統一と決定。
15（水）●千葉市花見川団地で自治会タクシーが開業。●洗剤の六割以上が塩酸などを無表示と判明。
16（木）●沖縄で頻発する米兵犯罪対策で軍民会議開催。
17（金）●東京地裁、家永教科書裁判で検定不当の判決。
18（土）●東京・杉並の高校で初の光化学スモッグ。●防衛庁、企業限定など防衛産業の育成策発表。
19（日）●自由米業者らの連絡協議会、初の全国大会。
20（月）●徳島地裁、徳島ラジオ商殺し事件（28年11月）の被告による再審請求を三たび却下する。
21（火）●農林省、暴落時のキャベツ産地廃棄制を実施。
22（水）●都教育長、体罰禁止を全都立学校長に通達。
23（木）●山口県東和町沖で戦艦「陸奥」の砲塔引揚げ。●大蔵省、赤字線廃止など国鉄再建策を諮問。
24（金）●黒部平と大観峰を結ぶ立山ロープウェー開通。
25（土）●海上保安庁、廃油など海上公害の取締り実施。●新潟県長岡市で「まちを緑にする課」発足。
26（日）●槍ケ岳取材中の読売新聞ヘリ墜落。二人死亡。
27（月）●都で光化学スモッグ注意報・警報の発令開始。
28（火）●閣議、中央公害対策本部の設置を決定する。
29（水）●銀行帰り狙う集団スリ続発で広域事件に指定。
30（木）●高槻市の高校で火事、埋蔵文化財一万点焼失。
31（金）●最高裁、仁保事件（29年10月）の死刑判決破棄。●国鉄、山手線で冷房車二〇両の運行開始。

毎日新聞社

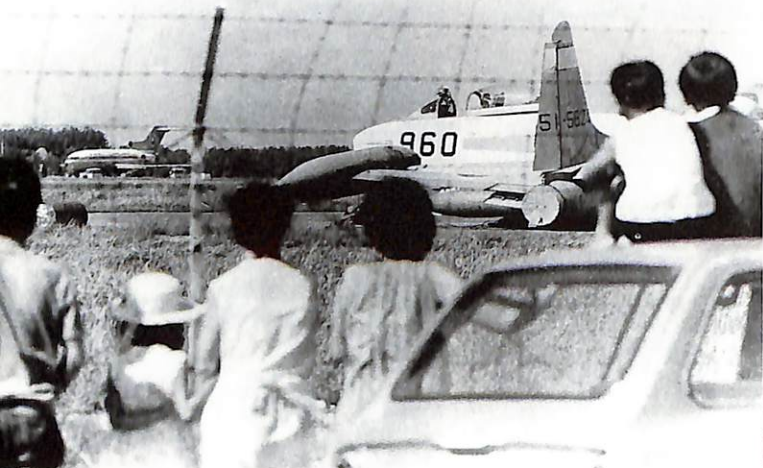
▶東京に歩行者天国（8月2日）日曜日のこの日、銀座・新宿・池袋・浅草でスタート。車を追い出し道路を歩行者に開放した。写真は銀座の様子で、23万人がのびのび。ＣＯ濃度も急低下した。

▼革マル派が血の報復（8月14日）仲間の東教大生・海老原君をリンチ殺人で失った革マル派が法大で中核派学生の手足を縛って暴行、10人に重軽傷を負わせた。

朝日新聞社

証言・あの日この日
植草甚一

12月31日（木）〈12時半に起き、6時ころヤマハへ出発するまで「ジャーナル」の原稿を書くことにする。油井さんに渡してくれという電話がきのうあった。20枚まで書き、6時に家を出て、渋谷で本を2冊。銀座はヒッソリ、平日のよう。ヤマハで8時半ころ喋る。……新宿へ出る。平日とまあ変らない。ＤＩＧにちょっとより、コマ劇場あたりを散歩、アルバイトのサンドイッチマンがぼくだと知っていて呼びとめられる〉（『植草甚一日記』）

特異なジャズ・映画評論家として一部に熱心なファンを持っていた植草甚一は、この年10月に刊行された『ぼくは散歩と雑学がすき』（晶文社）によって、さらに多くの若者たちの支持を集め、町を歩くとしばしばサインを求められることになる。普通の人が家庭生活に戻る年末年始も、植草甚一の日常はいつもと変わらない。（坪内祐三）

毎日新聞社

▲乗っ取り防止法適用第1号（8月19日）80人を乗せた千歳行きの全日空機が、名古屋空港離陸直後にハイジャックされた。犯人は2時間後に逮捕、「よど号」事件後に制定された乗っ取り防止法が初適用された。

▼日本ソフトボール世界一に（8月30日）万国博を記念して、大阪・長居競技場で行われていたソフトボール世界選手権で、日本女子がアメリカを破って優勝した。

共同通信社

▶小型ヨット「白鴎号」、世界一周を達成（8月22日）前年5月5日に出航、マゼラン海峡をまわる約5万キロを日本人で初めて帆走、神奈川県三崎港に帰還した。

読売新聞社

昭和45年8月

1（土）●中古車の排ガス規制を開始。
2（日）●銀座、新宿などで初の歩行者天国を実施。
3（月）●山田広島市長、原爆碑文は改定せずと言明。●銚子漁民六〇〇人、火力発電所建設反対デモ。
4（火）●中核派に拉致された革マル派学生の遺体、法政大構内で発見（14日に報復、内ゲバ激化）。
5（水）●日本初の超高層気象観測ロケット、打ち上げ。
6（木）●電電公社、四七年度から市内三分一〇円など、電話料金の改定案（遠距離は割安）を発表。
7（金）●青森県三沢地区労、米兵の外出禁止求め集会。
8（土）●中島正一、日本人初のドーバー海峡横断水泳。
9（日）●田子ノ浦港でヘドロ公害追放抗議集会を開催。
10（月）●尖閣諸島の油田探査を米国企業に許可した台湾に抗議した、と愛知外相が答弁する。
11（火）●食管法規則改正で、スーパーでも米販売へ。
12（水）●沖縄米軍軍事法廷、女子高生刺傷事件（5月）の米兵に重労働懲役三年、不名誉除隊の判決。
13（木）●東芝、ＬＳＩの多種類量産化に成功と発表。
14（金）●京都地検、サリドマイドの大日本製薬を再捜査の結果、「未必の故意なし」と不起訴処分。●地価対策閣僚協議会、農地転用など対策決定。
15（土）●建築学会が万博のカナダ館など三館に特別賞。
16（日）●神奈川県で環境保護運動の連絡会議を結成。
17（月）●都内ソフトクリーム店二三店が営業停止に。
18（火）●広島県、昭和電工に福山市進出断念を要請。●中国政府、台湾との日華協力委員会に参加している企業を対中国貿易から排除、と発表。
19（水）●全日空機乗っ取られ浜松に着陸、犯人逮捕。
20（木）●ジュネーブ軍縮委で日本の代表が公海上のミサイル実験の規制を提唱する。
21（金）●歴史的風土審議会、飛鳥京を保存区域に指定。
22（土）●昭和電工川崎工場のヘドロから多量のシアン検出。●小型ヨット「白鴎号」、日本人初の世界一周成功。
23（日）●米上院、沖縄返還の秘密聴聞会記録を公表。
24（月）●京都市、大型ごみの各戸無料収集を決定。
25（火）●閣議、第三次資本自由化措置を決定する。
26（水）●ビデオ企画・制作会社設立相次ぐ、と新聞に。
27（木）●横浜市教委、学校完成まで洋光台団地三七五三世帯の入居延期を住宅公団に申し入れる。
28（金）●一〇〇万ドル以下の対外直接投資の自由化決定。
29（土）●田子ノ浦港でヘドロ公害に反対し漁船デモ。
30（日）●植村直己が北米最高峰のマッキンリーに初の単独登頂に成功、と日本山岳協会に連絡。
31（月）●女性校長は全国で二〇〇人、と文部省調査。

CORBIS-BETTMANN／PPS

WWP

▲**旅客機を相次いでハイジャック（9月6日）**パレスチナ解放人民戦線（ＰＦＬＰ）は、ライラ・ハリド（右）らパレスチナゲリラの解放を要求し、欧州で旅客機を連続ハイジャック。翌日、カイロ空港でパンアメリカン機を爆破した（左）。

京都新聞社

◀**自衛隊機、民家に墜落（9月2日）**大阪府八尾飛行場から、石川県小松基地へ向かう途中の航空自衛隊双発プロペラ機が、滋賀県彦根市金剛寺町で墜落。乗員4人が即死し、民家3棟が全半焼した。

▶**日本最古の庭園跡発見（9月11日）**奈良県明日香村の小墾田宮跡を調査していた奈良国立文化財研究所は、同宮跡東南の隅から、飛鳥時代の庭園とみられる池、曲水跡の遺構などを発掘した。

共同通信社

時事通信社

▶**猛烈残暑に大粒の雨（9月3日）**午後5時頃から約30分間、関東・東海地方を稲妻をともなう大粒の雨が襲い、地下鉄のホームが冠水するなどの被害が続出したが、雨の後はすごしやすい夜となった。

◀**終始笑顔の佐藤首相（9月25日）**第8回芸術、文化関係者との懇談会が、東京・永田町の首相官邸で開かれ、作家・俳優など約600人が出席。4選がほぼ決まった首相は、最後まで上きげんだった。

共同通信社

昭和45年9月

1（火）●日本総合研究所設立（理事長・茅誠司）。
●広中平祐、数学のフィールズ賞を受賞する。

2（水）●札幌地検、心臓移植の和田寿郎を不起訴処分。
●彦根市の民家に自衛隊機墜落。乗員四人死亡。

3（木）●横浜でチクロ入りジュースを販売の社長逮捕。

4（金）●日本製テレビにダンピング容疑と米官報公示。
●鳥取県、国鉄無人駅業務の農協代行案を発表。

5（土）●万博一日入場者が史上最高八三万五八三三人。
●椿忠雄新潟大教授、神経学会でスモンの原因は整腸剤のキノホルムにあると発表する。

6（日）●パレスチナゲリラ、欧州で連続ハイジャック。

7（月）●中央薬事審議会、キノホルム販売中止を答申。

8（火）●警視庁、成人映画の審査強化を映倫に警告。

9（水）●千葉幕張のアサリから七年で三倍の水銀検出。

10（木）●琉球政府、台湾政府に尖閣諸島の領有を主張。

11（金）●主婦連など、カラーテレビ値下げ要求を決議。

12（土）●上半期の火災損害額は過去最高と消防庁発表。

13（日）●日本万国博覧会、閉幕。入場者六四二一万余。

14（月）●米国防長官、沖縄の毒ガス兵器を撤去と表明。

15（火）●国鉄、Ｄ51機関車を名古屋―前原間で運行。

16（水）●政府、ヘドロ外洋投棄の無期延期を決定。

17（木）●ソニー、日本企業で初めてニューヨーク証券取引所に株式を上場する。

18（金）●電電公社のキャッチホンサービスを認可する。
●沖縄糸満町で飲酒米兵が主婦をひき殺す。
●秋田県東部にある駒ケ岳の女岳付近で噴火。

19（土）●同伴旅館の六四％が脱税、と東京国税局調査。

20（日）●有明海の漁民、カドミウム汚染に抗議し三井三池製煉所の正門前に汚染した赤貝をまく。
●世界反共連盟、東京で戦後初の世界大会開催。

21（月）●京都市電、車内でのＣＭ放送実施を決める。

22（火）●米上院、大気汚染防止法（マスキー法）案可決。

23（水）●北方領土墓参団の四九人、根室港を出発する。

24（木）●皇居前の東京海上ビル建設計画、高さを一〇〇ｍ以下とした変更案に建設省が認可。

25（金）●日立製作所、人工知能ロボットを開発と発表。

26（土）●日本最大のタンカー「沖ノ嶋丸」、処女航海終了。

27（日）●多摩川の玉川浄水場、供給地域で子どもの骨を侵すカシン・ベック病が発生し給水停止。

28（月）●福岡地裁小倉支部でカネミ油症事件公判開始。
●アラブ連合のナセル大統領が急死。

29（火）●全林野労組、除草剤2・4・5Ｔ使用に反対。

30（水）●成田空港反対派所有地に公団が強制収用の立ち入り調査。反対同盟員五九人が逮捕される。

朝日新聞社

▶**永田オーナー喜びの日、ロッテ優勝（10月7日）**ロッテ・オリオンズは、東京球場で対西鉄25回戦を行った。ロッテは5対4で西鉄を破り、2位南海に13ゲーム差で、10年ぶりのパリーグ優勝をとげた。

▼**反対闘争本格化する北富士演習場（10月20日）**5年ぶり実施の米軍による実弾射撃訓練に反対の地元住民は、8月に座りこみ用の小屋を建てて抵抗したが、10月27日に小屋は強制撤去された。

朝日新聞社

▲**爆発事故で民家に被害（10月24日）**長崎市の三菱重工長崎造船所で、ボイラーとヒーターボックスが爆発し、噴き上げられた鉄塊が付近の民家を直撃。住民1人を含む従業員58人が死傷した。

毎日新聞社

WWP

▲**19億円不正融資の容疑者、パリで逮捕（10月4日）**東京の富士銀行雷門支店の不正融資事件で逃亡中の容疑者が逮捕され、16日強制送還、後に起訴された。

電通

読売新聞社

▶**デゴイチ（Ｄ51）、さよなら運転（10月10日）**鉄道の無煙化とともに、ダイヤから姿を消していた蒸気機関車が、この日約1000人のファンに見送られ、新幹線とともに、東京駅を出発、横浜駅に向かった。

◀**「ディスカバー・ジャパン」始まる（10月14日）**万国博後の減客対策で国鉄は観光客重視を打ち出し、キャンペーンの全国展開を始めた。企画は電通が担当、若い女性をおもな対象に51年まで続けられた。写真は46年夏のポスター。

昭和45年10月

1（木）●戦後初めて沖縄を含む国勢調査が実施される。

2（金）●山陽新幹線の六甲トンネルが貫通する。

3（土）●高知空港でセスナ機がダイナマイトで爆破。
●日本花粉学会、花粉症の対策推進を決定する。

4（日）●富士銀行不正融資事件の容疑者、パリで逮捕。

5（月）●江戸川区の製缶工場が騒音で無期操業停止。
●東海大で全共闘系学生が教職員用のバスを乗っ取り、守衛所を襲撃。衝突で一四人重軽傷。

6（火）●労働四団体、公害追放と減税で初の共闘方針。

7（水）●防衛庁、第一次沖縄防衛計画を発表する。

8（木）●東京・神田で公害絶滅全国漁民総決起大会。

9（金）●三池製煉所で硫酸ミストを放出、住民に被害。

10（土）●首都圏最後のＤ51蒸気機関車、さよなら運転。

11（日）●東名高速道でマイクロバスが横転、二人死亡。

12（月）●宇井純、東大で自主講座「公害原論」を開講。

13（火）●府中でカドミウム検出、都が工場の監察決定。

14（水）●国鉄、乗客減対策で初のイメージ・キャンペーン「ディスカバー・ジャパン」を始める。

15（木）●公取委、過大景品の四社に謝罪広告を命令。
●文部省、高校学習指導要領を一〇年ぶり改定。

16（金）●京都市で第一回世界宗教者平和会議を開催。

17（土）●主婦連など、松下電器の全製品不買を決定。

18（日）●西宮市の阪神パークでレオポン（ライオンとヒョウの混血動物）が急死する。

19（月）●狩野川に抗生物質流出、鮎など二〇万匹死ぬ。
●日本癌学会などの三学会、合同癌会議を開催。

20（火）●政府、初の防衛白書『日本の防衛』を発表。
●農林省、ＤＤＴなど稲作には使用禁止と決定。

21（水）●佐藤首相、首相では初めて国連総会で演説。

22（木）●ヤシカ、五億円横領の前取締役を告訴する。
●大場政夫、ＷＢＡ世界フライ級王者になる。

23（金）●佐世保造船所でタンカーが爆発、三人死亡。

24（土）●甲府地裁、防衛施設庁の申請を認め、北富士演習場の闘争小屋撤去を忍草入会組合に通告。

25（日）●渋川市の高校で火山噴火実験中に薬品が爆発。

26（月）●日本クレー射撃協会理事を賭博容疑で逮捕。

27（火）●国会の裁判官訴追委が、裁判官二一三人に青法協加入確認の照会状を郵送、と判明する。

28（水）●日銀、公定歩合を〇・二五％下げ、六％に。

29（木）●プノンペン郊外の国道沿いで報道カメラマンの沢田教一が、射殺死体で発見される。

30（金）●東京湾でタンカー同士衝突し沈没。七人死亡。

31（土）●北海道長沼町で、航空自衛隊のナイキ基地建設のため、保安林の伐採を開始する。

▶両氏、喜びの記者会見（11月3日）昭和45年度の文化勲章は、自律神経支配に関する新理論を展開した神経内科の権威・沖中重雄と、独特の作風で知られる版画家の棟方志功が受章した。

毎日新聞社

▼沖縄島民、戦後初めて国政に参加（11月）15日の投票に向け、沖縄の全55市町村で衆・参両院の選挙戦がスタート。投票率は83.58パーセントに達し、衆院5、参院2の議席が決まった。

毎日新聞社

▲黒煙上げて炎上、大型タンカー（11月28日）横浜港沖に停泊中のタンカー「ていむず丸」（7万7541トン）がタンク清掃中に爆発し、4人が死亡、24人が重軽傷を負った。

読売新聞社

▶患者の怒り爆発、チッソ株主総会（11月28日）大阪厚生年金会館で開かれた株主総会は4分、説明会は30分だった。会社の責任追及で出席した約100人の水俣病患者らが強く抗議し、怒号と大混乱のうちに閉会した。

◀公害をなくし、青空と緑を（11月29日）反公害運動に消極的だった労働組合と公害被害者の市民団体が連携。全国40都道府県の150会場で初の公害メーデーが開かれ、約82万人が参加した。

朝日新聞社　朝日新聞社

昭和45年11月

1（日）●社会党訪中団、中国との共同声明に調印する。●悪質者排除のタクシー運転手登録制度を実施。
2（月）●日本消費者連盟、ブリタニカ日本支社の百科事典販売法は消費者を惑わす、と地検に告発。
3（火）●米、日本製チューナーにダンピング税を賦課。
4（水）●文化庁、『文化財白書』を発表。保護を強調。
5（木）●全国のカドミウム使用工場の五六㌫が排水基準量を超える、と通産省が調査を発表。
6（金）●兵庫県安富町で日本最古の民家を復元棟上げ。
7（土）●四歳児はひらがな三四字、五歳児は五三字を判読すると国立国語研究所が調査結果を発表。
8（日）●山梨県西湖でラリー中の車が転落。二人水死。
9（月）●第一回日本歌謡大賞に藤圭子の「圭子の夢は夜ひらく」が受賞する。
10（火）●都内で自動車の排ガス一斉点検を初めて実施。
11（水）●千葉市でアジア初の技能オリンピック開催。
12（木）●外航タンカーに初の女性乗員一〇人が決定。●川崎市で初めて二〇代の公害病患者が死亡。
13（金）●鹿島工業地帯でアンモニア噴出、数百人中毒。
14（土）●日本初のウーマン・リブ大会、東京で開催。
15（日）●沖縄で戦後初の衆参両院選挙を実施する。
16（月）●学生一万人以上の大学は三三校と文部省調査。
17（火）●公取委、メーカーや問屋からの「手伝い店員」は独禁法違反と、デパート一八三社に警告。●国連の中国代表権討議で日本は台湾を擁護。
18（水）●大阪のガラス会社社長、延べ四〇〇人の児童に危険な作業をさせた容疑で書類送検される。
19（木）●経団連など三団体が公害罪法案に反対を表明。
20（金）●閣議、沖縄復帰対策要綱、第一次分を決定。●同じ手紙を二九人に書かなければ不幸になるとする「不幸の手紙」が流行、と新聞に。
21（土）●通産省、島根県浜田沖の石油試掘を許可する。
22（日）●日本野鳥の会、多治見市でかすみ網実態調査。
23（月）●脱走犯、浦和でアパート占拠後、自殺をはかる。
24（火）●第六四臨時国会（公害国会）が召集される。
25（水）●三島由紀夫、自衛隊市ケ谷駐屯地で割腹自殺。●ダイエー、カラーテレビを四〇㌫引きで販売。
26（木）●佐藤首相、台湾政府との関係は不変、と答弁。
27（金）●アジア開発銀行、初の円貨債発行契約に調印。
28（土）●チッソ株主総会後、水俣病患者ら社長を追及。●美浜原子力発電所の一号機、営業運転を開始。
29（日）●初の公害メーデー。全国で八二万人参加。
30（月）●労働省の調査で、有害物質を扱う全国の事業所の七三㌫が未処理のまま廃棄と判明する。

▲3兆円のボーナス景気（12月6日）大手企業のボーナスも出揃い、初のボーナス・サンデーのこの日、デパートには客が押し寄せ、売り上げは史上最高を記録した。

読売新聞社

▲猟銃男、トイレに籠城（12月18日）石川県で車ごと猟銃を盗み、強盗に押し入ろうとした男が発見されて逃走。高岡市郊外の二上山のトイレでようやく逮捕された。

朝日新聞社

▲両国の暗い歴史に幕（12月7日）ワルシャワを訪れたブラント首相は、西ドイツ・ポーランド条約に調印し、ユダヤ人勇者の碑に花束と祈りを捧げた。

WWP

▶求人減少に労働者らの不満爆発（12月30日）大阪市西成区のあいりん地区で、万博後の不況による賃金の低下や、手配師の暗躍に労働者ら約500人が不満を爆発、労働福祉センターに放火するなど混乱した。

朝日新聞社

◀荒れ狂う反米感情（12月20日）沖縄コザ市で、米軍の交通事故処理をきっかけに日頃の不満が爆発。住民約5000人が車73台、嘉手納基地内の小学校3棟を焼き、20人が逮捕された。

読売新聞社

▲西側よしみ、大会初の5冠王（12月16日）タイのバンコクで開催中のアジア競技大会8日目、西側よしみは、女子200メートル個人メドレーに日本新で優勝、5個目の金メダルを獲得した。

昭和45年12月

1（火）●立会演説会開催、選挙公報配布など初の完全な公営による選挙、茨城県議選告示。
2（水）●「偏向教育」として懲戒免職処分を受けた福岡伝習館高校の三教師が処分取り消し求め提訴。
3（木）●建設・農林両省、大都市近郊の無秩序な宅地化を避けるための開発構想をまとめる。
4（金）●三和銀行、カード式自動預金機を開発と発表。
5（土）●一一月の大型企業倒産は過去最高、と判明。
6（日）●TBSでひな壇が崩れ、合唱団員一四人負傷。
7（月）●全逓、全国の拠点郵便局で三日間の休暇闘争。
8（火）●立命館大で「わだつみの像」再建され、除幕式。
9（水）●超党派の日中国交回復促進議員連盟が発足。
10（木）●文部省、教科書での公害の記述総点検を開始。
11（金）●河川では初めて飛鳥川が史跡に指定される。●三和など四行と野村証券、国際合同銀行設立。●沖縄の主婦轢殺（9月）米兵に軍事法廷が無罪。
12（土）●農林省、六年間で米三〇㌫減反など指標発表。●全旅客機にボイス・レコーダー搭載を義務化。
13（日）●大阪住吉署で、警官のミスから三人が逃走。
14（月）●米軍の山田弾薬庫返還通告を、防衛施設庁が受け入れ態勢不備を理由に拒否、と判明する。
15（火）●北海道の三井砂川鉱でガス爆発。一九人死亡。●ハーグ会議でハイジャック防止条約を採択。
16（水）●万博で外国人露店四八店が二億四〇〇〇万円売り上げ、七〇〇〇万円納税、と国税庁発表。
17（木）●富士市の市民団体、東京でヘドロを「販売」。
18（金）●京浜安保共闘、板橋の交番を襲撃し五人死傷。
19（土）●沖縄美里村で毒ガス兵器撤去要求一万人集会。
20（日）●沖縄コザ市で、反米騒乱が起きる。
21（月）●日米安保協議委員会、横田・三沢基地の米軍兵力を沖縄・韓国に移転することで合意。
22（火）●大阪で都市有線テレビが送信を開始。
23（水）●公取委、カラーテレビ値下げを通産省に要請。
24（木）●公職選挙法改正公布。ビラ・ポスター規制。●競輪の京王閣、都の廃止通告に損害賠償提訴。
25（金）●公害対策基本法改正など公害関係一四法公布。●裁判官に青法協加入・天皇制是非の質問状を送付した飯守鹿児島地裁所長が解任される。
26（土）●米、ベトナムで枯葉剤使用は翌春までと発表
27（日）●松戸市で段ボール工場一〇〇〇平方㍍が全焼。
28（月）●OPEC、原油価格の全面値上げを発表する。
29（火）●慶大病院が生理休暇は無給で二日だけと通告。
30（水）●米価を物価統制令から解除、と政府決定。
31（木）●日中漁業代表団、巻き網漁業の規制に合意。

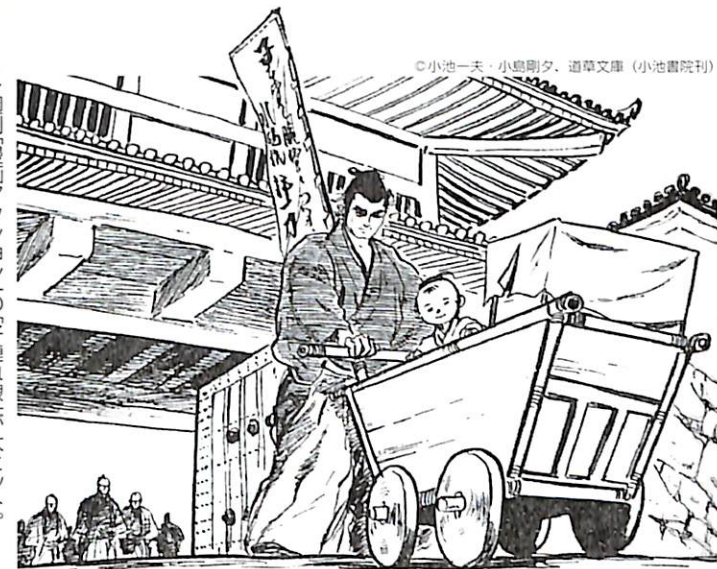
俄楽多市（がらくたいち）

流行語
高度成長の世相にウハウハ

「ハヤシもあるでよ〜」。四五年はハウス食品の「ウハウハ喜ぶ」と、オリエンタルカレーの「ハヤシもあるでよ〜」という二つのテレビCMが、爆発的に流行した。「ウハウハ」はもうかってもうかって笑いがとまらないという高度成長の世相にピッタリで、何かにつけて体を前後にゆらしながら「ウハウハ」を連発する姿があちこちで見うけられた。一方「ハヤシもあるでよ〜」は、コメディアン・南利明の名古屋弁のユーモラスな口調が若者にうけ、意味もなく「ハヤシもあるでよ〜」と叫んだり、「〇〇もあるでよ〜」と、いろんな形に応用された。

「鼻血ブー」。谷岡ヤスジのギャグ・マンガから生まれた流行語で、精力が溜まって仕方がない状態のこと。谷岡はこの頃、「オンドリャー」「ドバッ」「全国的にアサー」といったギャグを連発し、いずれも流行語になった。

「怨（おん）」。高度成長で世間が浮かれる中、水俣病の患者たちは国と新日本窒素（現・チッソ）相手に苦しい闘争を強いられていた。そのさなか「怨」という旗印を掲げた僧侶の集団が登場、これが話題を呼んで各地の公害闘争のスローガンとなった。

©小池一夫・小島剛夕、道草文庫（小池書院刊）

▶週刊「漫画アクション」の「子連れ狼」が大ヒット。

ファッション
理想のスタイルは、肉体派からガリガリ派へ

西ドイツの婦人服組合が、理想的プロポーション像を一〇年ぶりに変更すると発表した。前回設定した時は女性の間に、肉体派女優ジェーン・マンスフィールド（バスト一〇四㌢、ウエスト四六㌢!?）への憧れが強かったので、その要素を加味したが、現在の憧れの的はモデルのツイッギー（バスト七七㌢、ウエスト五五㌢）、これでは合うわけがないというわけ。

リスト
労働省が作ったムダな職業一覧の中味は

労働省が「労働力ムダ遣い総点検」というリストを発表した。世の中にはムダな職業がいっぱいある。それらを廃止、縮小、機械化の三つに分類したもので、人手不足の折からこれらの職業についている人は転職しなさいというもの。ヤリ玉にあがった職業は——。

廃止＝デパートのエレベーターガール、お手伝いさん、飲食店の出前、キャバレーのホステス、クツ磨き、ゴルフ場のキャディー、ビルの受付、タクシー乗り場の案内係など。

縮小＝デパートの売り子と商品包装と配達。鉄道の出札業務、マージャン屋など。

機械化＝観光バスのガイド（テープで代用）、パチンコの玉売り、映画館の入場券売り、田植え、稲刈りなど。

これに対して、「よけいなお世話だ。一番ムダなのはこんなリストを作っている労働省だ」と反発する声も強い。

（「日本経済新聞」五月二二日）

物価
二〇〇円の駅弁の原価を計算してみると

万国博をきっかけに駅弁の人気が高くなった。駅弁業者は全国に三〇〇、トップは日本食堂で一日に約二万食を作っている。その中味の内訳はというと（二〇〇円の駅弁の場合）。

弁当折り、ハシ、手ふき、包装などで二三円。ごはんが約二五円。梅干し二円、魚の照り焼きまたはフライ一五円、カマボコ一〇円、エビ天一五円、卵焼き一〇円、チェリー五円、白うずら煮七円、酢づけ野菜五円、タケノコ、フキ、新香など一五円で、原価は計一三二円くらい。

▲ポリバケツなど、燃えないゴミは「夢の島」に。

共同通信社

CM100年
テレビCF「モーレツからビューティフルへ」（富士ゼロックス）

モーレツからビューティフルへ
XEROX

美女倶楽部　伴田良輔・選

▲ニューヨークのウォール街で屋外撮影された、女優・鰐淵晴子の大胆なヌード、「イッピー・ガール・イッピー」。広角レンズを用いた斬新なアングルと若く凛々しいモデルの肉体は、大きな反響を呼んだ。撮影、タッド若松。

三面記事
世界の〝性地〟へ研修旅行

〝大人のオモチャ〟を扱う業者の一行三〇人が、一六日間の予定で、世界の〝性地〟へ研修旅行に出かけた。目的は、「さらに高い次元でこの道の奥義をきわめるため」（団長の話）。

一行はまずデンマークのコペンハーゲンで、世界的に有名な〝セックス・フェア〟を見学した後、当地のポルノ業者の実態を調査する。次には西ドイツのハンブルクで〝飾り窓の女〟たちと交歓、彼女たちが使っている〝オモチャ〟も見せてもらう。さらにスイス、イギリス、フランス、イタリアと性の先進六ヵ国をまわって、各国の性文化のエッセンスを吸収してくるという。

ある参加者は「今のように警察とのトラブルばっかりにかかずらわっていると、新しいイメージもわいてこないですからね」と抱負を語っている。

（「週刊新潮」九月五日号）

泥棒の心理を知るには、泥棒になるのが一番？

「犯罪者の心理」というテーマの卒業論文を書くため、実際に盗みを働いていた大学生（二二）が、東京・新宿署に捕まった。この男は国士舘大学の四年生。音楽好きの弟（二〇）から「バンドを作りたいが楽器がないので盗みたい」と相談を持ちかけられ、自分も卒論の資料にするため協力することにした。それからは二人して都内の音楽事務所からエレキギター、ドラム、バンドマンのユニフォームなどを次々に盗んでいたもの。

捕まった大学生は「盗んだ時の気持ちを分析して書けば、ユニークな論文ができると張り切っていたのに」と本気でぼやいていたという。

（「サンケイ新聞」一二月七日）

▲長髪とモノセックス・ファッションが流行。

中谷吉隆

マンガの人気者力石徹の〝告別式〟

マンガ週刊誌「少年マガジン」に連載中の「あしたのジョー」（二月一五日号）で壮烈な死をとげたボクサー・力石徹の〝告別式〟が、三月二四日、出版元の講談社講堂で小学生から大人まで約六〇〇人の参列者をまじえて行われた。力石は、同じ少年院育ちの主人公ジョーと死闘のうえ悲惨な死をとげる〝敵役〟。それが逆に読者の人気を集めたもので、「君は体制の幻想敵にすぎなかった」といった内容の弔辞が、編集長によって読み上げられた。

（「毎日新聞」三月二五日）

▶省力化と無料駐車防止を目的に、無人駐車料金徴収機「パークロック」が登場。

データ
新大久保では、一日に九〇〇〇組の愛と汗

東京・新大久保の同伴ホテルは二四〇軒で、平均一二〜一三室。これが一日三回転するので、ざっと九〇〇〇組のカップルが毎日、この地域を利用していることになる計算だ。四月二六日は特に盛況で、一九室の「ホテル山王」は、部屋が全部ふさがって客は平均一時間待つことになった。一二室の「M」は二時間待ちだった。この日は日曜と大安が重なったため結婚ラッシュ、都内だけで三七〇〇組が式を挙げた。それにあおられたせいという。

（「週刊大衆」五月一四日号）

この年の初もの
たい焼きの自販機が東京・浅草に登場

●エロ雑誌の自販機　万国博会場に置かれていたおしぼりの自販機を業者が買い取って改造したもの。これが自販機本から、ビニ本ブームへと展開していくきっかけを作った。

●土屋　「園芸用にあなたの故郷の土を用意します」という商売。お値段は、一袋（一・八リットル）一二〇〇円。北海道と沖縄は、運賃が加算されて一五〇〇円。

世界の動き

最高潮を迎えたウーマン・パワー！ 10万人の女性がアメリカ中の街頭を占拠した日

一九六〇年代後半から七〇年代にかけて、アメリカで女性解放をめざすウーマン・リブ運動が活発になった。この運動は、女性の自立と社会進出をめざしたが、反面、離婚や母子家庭の増大をもたらすなど、米国社会を根底からゆるがした。

▲行進には「黒人と第三世界の代表」という女性も参加した。 Black Star PPS

ニューヨークの五番街に集まった女性たちの叫び

八月二六日、車の進入が禁止されたニューヨーク五番街の広々とした車道いっぱいに、女性たちが集まり始めた。銀座通りの二倍の幅がある歩道には、それを見物する何万という市民、五時すぎには勤め帰りのビジネスマンたちも集まったが、くつろいで見物する人が多かった。

六時すぎ、女性たちが動き始めた。彼女たちは口々に「妊娠中絶の自由」「女性解放」と叫びながらセントラル・パークをめざした。

米国の婦人参政権獲得五〇周年にあたるこの日、ニューヨークで二万人、ボストンで三〇〇〇人など、全米の主要都市でおよそ一〇万人の女性が、街頭デモに参加した。彼女たちの要求は、①無料で妊娠中絶を行う施設の建設、②二四時間の公的な託児所の建設、③就職と教育に関する機会均等の三点だった。経済的な切実感はなく、夫と子どもに縛られずに自由になりたいという欲求が勝ったものだった。

この集会はウーマン・リブ史上の画期となったが、指導したのは、全国委員長のベティ・フリーダンである。一九六三年に『The Feminine Mystique』（邦題『新しい女性の創造』）を出版し、「何百万という女性が、結婚という生活保障のために、みずからの個性、能力を犠牲にし、生きがいをみいだせないで家庭に生きたまま葬られている」として女性の解放を呼びかけた中心人物だった。

◀『性の政治学』を著したケイト・ミレット。

松本路子

成果の獲得とともに多くの矛盾も露呈

一九五〇年代のアメリカ女性たちの夢は、郊外の美しい家で、パイを焼き、子どもの送り迎えをするというものだった。しかし、同じ頃〝ジャスト・ハウス・ワイフ〟「ただの主婦」という言葉が女性たちの心に忍び寄っていた。とるにたらないことをしているだけの女、これでいいのだろうかという疑問である。

一九六六年に「全米女性機構」（略称はNOW、会長・フリーダン）が結成され、男女平等を要求し、女性が職場など社会のあらゆる方面に、しかもその中枢への進出を目標とした。この運動は大きな成果をあげたが、「NOWは黒人女性を切り捨てている。よくなったのは白人の中産階級だけ」という指摘もある。

もうひとつの流れが、公民権運動に参加していた女性が中心の、〝ウイメン

▲8月26日、全米各地で女性だけのデモ行進と集会が繰り広げられた。写真はワシントンのデモで、女性の自由や平等を掲げる参加者が目立った。 CORBIS-BETTMANN PPS

外から見たNIPPON

「今や飛行機より鯨が大事」リンドバーグ来日の目的

――佐伯　修

「翼よ、あれがパリの灯だ」の大西洋横断初飛行で名高い米国の飛行家、リンディことチャールズ・A・リンドバーグ（一九〇二～七四）は、この年の四月二六日、羽田空港に降り立った。昭和六年八月二七日、妻のアンとともにフロートつき小型機「シリウス」で北太平洋を横断、霞ケ浦に着水して以来三九年ぶりの来日で、表向きの理由は「シリウス」が展示されている大阪の万国博会場訪問のためである。

前回の来日の翌年に起こった長男誘拐・殺害事件以来、極度のマスコミ嫌いになったと言われるリンディは、米国大使館におけるレセプションの席上、今や自分にとっては「飛行機より鯨が大事」と主張して、報道関係者らを驚かせた。

「日本は二大捕鯨国のひとつ。鯨の専門家もそろっている。今後、捕鯨船団に国際組織の看視人を置いて、捕獲量を確かめねば……」（「朝日新聞」四月二八日）

昨今の反捕鯨運動の一部のようなヒステリックさはないが、日本の捕鯨に対する、環境・野生生物保護方面からの風あたりの強まりを、この発言は印象づけた。実は、今回、彼が来日した真の目的は、同行の次男・ジョン（海洋生物学者）とともに、日本の捕鯨関係者に会うことだったのである。

リンディは、世界各地を飛行機で飛ぶうちに環境破壊の深刻さを強く感じ、それが鯨の保護運動へと向かう動機につながったとも、このレセプションで述べている。

さて、リンディといえば、ナチス・ドイツの空軍幹部との親交（これは事実である）や、最近の長男誘拐狂言説など、今もってスキャンダラスな話題が尽きない。

そんなリンディは、第二次大戦末期、南太平洋で、戦闘機乗りとして日本軍と戦った。その間の日記には、日本軍の残虐行為に触れたくだりはあっても、日本人への憎悪や偏見はほとんど見られず、逆に捕虜を面白半分に殺したり、日本側に協力したと称して現地住民の村を襲う米兵の姿が綴られている。

それを読むかぎり、ベトナム戦争の米軍は「よい米軍」だが、太平洋戦争の米軍は「悪い米軍」だった、というのは誤りのようだ。

日記からは、米軍内に、敵の残虐を理由に味方の残虐行為を許す傾向が蔓延するのを、彼が米軍のために憂えていたことが読みとれる。しかし、彼が米軍の恥部を暴いたことは、ドイツ軍人との交際とともに、米国の一部で反感を生み、スキャンダルを生む原因ともなっているのではなかろうか。

▶一九五四年、回想録によりピュリッツァー賞受賞。　朝日新聞社

ズ・リベレイション"（この言葉がウーマン・リブと呼ばれた）の運動で、一九六七年には女性解放運動の組織化を始める。

この運動は地域的な話し合いのサークル活動を大切にした。男女の育児や家事分担、職場での性差別、中絶など問題は多岐にわたったが、この活動で女性の意識が少しずつ変わっていった。

また、一九七〇年には、ケイト・ミレットの『性の政治学』も運動に大きな影響を与えた。ここでは家父長制と女性の地位の関係を分析し、文学者や思想家の持つセクシズム（性差別主義）を暴露、批判した。こうした運動が最高潮に達したのが八月二六日の行進で、ウーマン・パワーを誇示するものとなったのである。

だが、運動は多くの成果を獲得すると同時に、離婚の増大、家庭の崩壊、母子家庭の増加など多くの矛盾も抱えるようになった。女性解放の進行が早すぎて、社会と男性が追いつかなかったのかもしれない。最近、「一体、女性解放運動を通じて、我々は幸せになったのだろうか」という声も生じている。

社会に対し広がりを欠いた日本のウーマン・リブ運動

一方、日本のウーマン・リブ運動は、ウーマン・パワーが全米を席巻していた一九七〇～七二年（昭和四五～四七）に始まった。昭和四五年は新左翼の運動が盛んだった。同年八月、田中美津が「侵略＝差別と戦うアジア婦人会議」で「便所からの解放」というガリ版刷りのビラを配布して、会場の若い女性たちにショックを与えた。"便所"とは男性の性処理の対象でしかない女性を表し、こうした性そのものの見直しを訴えた。本格的なリブ運動はここから始まる。

同年一〇月「ぐるーぷ・闘うおんな」が結成され、翌年の長野合宿には、一〇〇人の女性が集まった。また、二年後には、「リブ新宿センター」を開設する。しかし他の婦人運動や労働組合、行政との接点を持たない彼女たちの運動は、ラジカルだったが、社会に対して広がりを欠き、大きな力とならなかった。

ただ、彼女たちの重たいメッセージは、今も生きている。

ベティ・フリーダン（1921～　）
米国女性運動の指導者。スミス・カレッジ卒業、心理学専攻。一九六六年に「全米女性機構」を設立して会長をつとめる。著書に「新しい女性の創造」「老いの泉」などがある。

▼昭和46年8月、長野県飯山市で3泊4日の「リブ合宿」が行われ、運動の出発点となった。　松本路子

往きて還らぬ

▲10月28日　沢田教一(34)　ピュリッツァー賞を受賞した報道カメラマン。カンボジアで前線を取材中、銃撃を受けて死亡。　UPI・BETTMANN／PPS

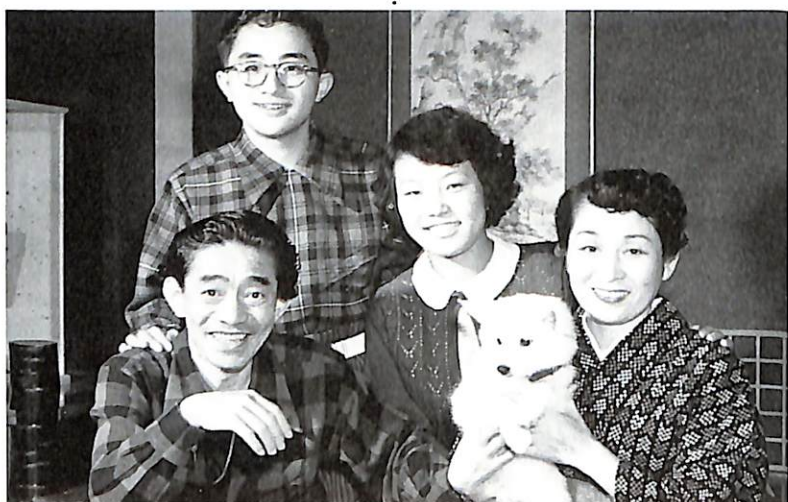
▲5月7日　鈴木茂三郎(77)　元社会党委員長。昭和3年に無産大衆党を結成。剛直な左派リーダーの反面、"泣きむしモサ"と呼ばれた温情派。

▼1月7日　榎本健一(65)　「喜劇王エノケン」として昭和の初期から戦後まで、映画と舞台で絶大な人気を博した。約200本の映画に出演。

▲11月9日　シャルル・ド・ゴール(79)　仏の軍人、政治家。「フランスの救済者」として第2次大戦中、自由フランス政府を組織。1958年に大統領に選ばれた。

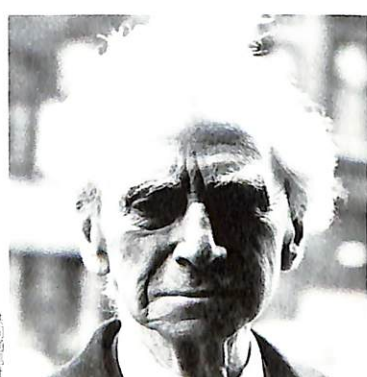
▲9月18日　ジミ・ヘンドリックス(27)　ミュージシャン。1960年代ロックを代表する天才黒人ギタリスト。麻薬を常用し、変死体で発見された。　WWP

▲11月22日　大宅壮一(70)　毒舌反骨の社会評論家で、「一億総白痴」などの新造語を生んだ。死後、蔵書をもとに「大宅文庫」が作られた。

▲10月31日　森田たま(75)　随筆家。昭和7年「着物・好色」でデビュー。「もめん随筆」がベストセラーに。37年には参院選に当選。

▲5月19日　岡晴夫(54)　歌手。高音を鼻に抜く独特の"岡節"が、大衆の人気を呼んだ。ヒット曲「啼くな小鳩よ」「東京の花売娘」など。

▲1月25日　円谷英二(68)　特殊技術撮影(特撮)の草分けで、怪獣映画「ゴジラ」やテレビのウルトラ・シリーズなどを手がけた。

▲11月29日　ニナ・リッチ(87)　服飾デザイナー。イタリア出身で13歳から裁断の修業を始め、1932年パリにブティックを開店。香水でも有名。　WWP

▲8月12日　西条八十(78)　詩人。歌謡曲の作詞も多く手がけ、数々のヒット曲を生んだ。「東京音頭」「誰か故郷を想わざる」など。

▲2月2日　バートランド・ラッセル(97)　イギリスの数学者、哲学者。共著「数学原理」で記号論理学の発展に貢献。平和主義者で反戦・反核運動も行った。　共同通信社

ミニ事典
1970年のキーワード

LSD
ムギにつくカビ（麦角）の分解生成物から合成される精神幻覚剤。リゼルギン酸ジエチルアミドの略。微量でも幻視を主とした激しい幻覚作用を起こすため、二月九日、厚生省が麻薬に指定。一九六〇年代から反体制運動の盛り上がりとともに欧米で流行し、昭和四五年度には日本でも六四人が売買、服用などによって検挙されている。

東京宣言
東京で開催された公害問題国際シンポジウムで、三月一二日に採択された宣言のこと。公害の解決をはかるために社会や経済の大幅な制度的変革を求め、国際的機関として公害委員会を設置することを提言した。シンポジウムは三月九日から一二日まで、一二ヵ国四六人の学者が参加して行われていた。

▲都内を視察する国際シンポジウム参加者たち。（朝日新聞社）

マル生
国鉄（現・JR）が財政再建のために進めた生産性向上運動。三月二〇日に能力開発課を設置して開始、最大の力点を反合理化を唱える国労・動労の弱体化におき、組合の切り崩しを激しく行った。これに対し組合側は反対運動を展開。四六年一〇月、公労委がマル生を不当労働行為と認め、磯崎叡総裁が組合に謝罪、関係者を処分して中止された。

LSI
ラージ・スケール・インテグレーション（大規模集積回路）の略。IC（集積回路）の集積密度が特に高いものを言い、チップと言われる五ミリ角、厚さ〇・五ミリほどのシリコン板に一万もの素子を組みこんである。日本では四月一六日に、日立製作所が高級電子式卓上計算機用に独自の技術によるLSIを開発したと発表、昭和四五年頃からLSI関連技術の開発が急速に進んだ。

▲LSIが使われた卓上電算機利用の電算塾。（朝日新聞社）

シンクタンク
企業や政府が経営戦略や政策の立案などについて、さまざまの分野の専門家を集めて研究・調査させる機関。アメリカ空軍のランド研究所などが有名で、日本では昭和四〇年の野村総合研究所が最初。四五年五月七日には三菱総合研究所が発足し、以降設立が活発化、四九年には半官半民の総合研究開発機構（略称NIRA）が登場している。

リニアモーターカー
軌道と車体の間に磁力を働かせ、その反発力と吸引力で走る列車。東海道新幹線の輸送需要の増大に対処するため、国鉄（現・JR総研）は五月一八日に、一五人の研究・開発チームを設立。動力の伝達が車輪とレールの摩擦によらないため、時速五〇〇キロ、東京―大阪間を一時間余で結ぶことが可能とされた。現在は山梨県で実験新線が建設されている。

光化学スモッグ
紫外線による光化学反応によって大気中に高濃度のオキシダントとアルデヒドが生成する現象。自動車の排気ガス、化学工場やゴミ焼却炉が排出する窒素酸化物や炭化水素が原因とされ、発生すると目の痛みや頭痛、吐き気を催す。七月一八日に杉並区の高校で生徒四三人が吐き気などで倒れた事件を、東京都は日本で初めて光化学スモッグが原因と推定した。

ヘドロ
河川、湖沼、海などの底に堆積するどろどろの土。特に産業廃棄物を含む汚泥をさす場合が多い。この年七月、静岡県富士市の田子ノ浦港がヘドロの堆積によって貨物船の航行が困難な状況となった。原因は市内約一五〇もの製紙工場から排出される汚水。これらは沿岸漁業にも深刻な影響を与え、行政・企業は、この事件を契機に汚水処理に対策の目を向けるようになった。

歩行者天国
八月二日、東京・銀座などで第一回目が実施された。道路を一時的に歩行者に開放し、排気ガスや騒音のない街にしようとする試みだった。美濃部東京都知事が四二年の就任以来進めたが、警察や商店街の反対が強かった。しかし、多発する光化学スモッグや自動車事故に対する「反公害」の声に支えられて実現、以後、各地で次々に実施されブームになった。

ABM
飛んで来るICBM（大陸間弾道ミサイル）を迎撃し防御するミサイル。弾道弾迎撃ミサイルの略称。アメリカが、この年八月二八日、太平洋上での実験に成功し、米ソのミサイル開発競争を刺激した。その後、SALT（戦略兵器制限交渉）の過程で、一九七二年（昭和四七）と七四年に制限条約が結ばれ、両国とも国内一ヵ所一〇〇基と規定。この条約はソ連崩壊後も継続されている。

国民総背番号制
国民の一人一人に認識番号をつけ、各人が持つ情報をコンピュータによって集中管理し、行政上の事務処理を効率化しようとする制度。行政管理庁を中心に構想されたが、国民は迅速で平等な行政サービスが得られるという利点がある反面、個人のプライバシーが侵されたり、国家に国民管理手段を与えるとの強い批判があり、実施されなかった。

公害関係一四法
公害対策基本法や大気汚染防止法などの改正八件と公害犯罪処罰法、水質汚濁防止法など六件のこと。一二月一八日の臨時国会で可決・成立。公害犯罪処罰法や公害防止事業費負担法では追及の甘さを指摘されたが、世論からの批判が強かった「経済調和」条項が削除されるなど、環境保全と汚染防止のための法体制整備が大きく進められた。

▶製紙工場の排水により、駿河湾田子ノ浦港にはヘドロが沈殿した。（読売新聞社）

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕二
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 シト・プロ (有)マックス (有)マライカ 鍵和田良輔 小松邦宏 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
新正卓 岩田弘行 塩田武史 タッド・若松 中谷吉隆 英伸三 平野美津子 松本路子 渡部雄吉 朝日新聞社 共同通信社 京都新聞社 時事通信社 新華社 中国新聞社 中国通信社 日刊スポーツ PPS 毎日新聞社 山梨日日新聞社 VALLEY・DAILY・NEWS 読売新聞社 WWP 東映 電通 日本航空 BMGビクター 富士ゼロックス 文化女子大学図書館 RAYBERT・PRODUCTIONS・INC. 文部省宇宙科学研究所

「日録20世紀」20号までの刊行スケジュール

（毎週火曜日発売。変更になる場合もあります。なお、刊行日は首都圏基準です）

創刊号（2月18日号）1959［昭和34年］
好評発売中●世紀のご成婚！●巨大「伊勢湾台風」の猛威●マイカー元年！わが家に車がやって来た●フルシチョフ首相の"歴史的"訪米

第2号（2月25日号）1964［昭和39年］
好評発売中●東京オリンピック開催！●新潟地震と産業都市のもろさ●新幹線「ひかり」、4時間で走る●米キング牧師にノーベル平和賞

第3号（3月4日号）1945［昭和20年］
好評発売中●マッカーサーの2000日●広島と長崎に原爆！死者は31万人●8月15日の「天皇と国民」●ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり

第4号（3月11日号）1970［昭和45年］
好評発売中●三島由紀夫、割腹自殺！●EXPO '70で日本も大国の仲間入り●「よど号」ハイジャック●ウーマン・リブ、全米で10万人デモ

次 号（3月18日号）1963［昭和38年］
3月4日発売●ケネディ暗殺事件！●「水俣病とチッソ」に決定的証拠●ホンダ車などオートバイ世界一に●えん罪晴れた"昭和の巌窟王"

第6号（3月25日号）1958［昭和33年］
3月11日発売●巨人軍・長嶋茂雄デビュー！●若者にロカビリー旋風●流通革命！スーパー・ダイエー1号店●ド・ゴール、仏大統領に就任

第7号（4月1日号）1972［昭和47年］3月18日発売●連合赤軍「浅間山荘」事件●日中国交回復の"乾杯！"●27年ぶりに沖縄が日本に還る●テルアビブとミュンヘン五輪の流血

第8号（4月8日号）1980［昭和55年］3月25日発売●山口百恵が引退！●ついに日本車の生産台数が世界一に●衝撃の金属バット殺人事件と家庭内暴力●韓国光州事件の真相

第9号（4月15日号）1976［昭和51年］
4月1日発売●角栄逮捕！政界に激震●山下家に五つ子ちゃん誕生●サービス革命！「クロネコ」走る●毛・周死去、文革がようやく終わる

第10号（4月22日号）1989［平成元年］
4月8日発売●昭和天皇ご大喪！●吉野ケ里発掘と邪馬台国論争●消費税3パーセント、混乱と不安のスタート●中国で天安門広場の惨劇

▶第11号（4月29日号）1960［昭和35年］4月15日発売
"安保"で国内騒然●所得倍増計画発表●清張ブーム●アフリカ独立国続出
▶第12号（5月6日号）1961［昭和36年］4月22日発売
ケネディ、大統領就任●「金の卵」大モテ●アンネ発売●朴正熙、権力の座に
▶第13号（5月13・20日号）1962［昭和37年］4月28日発売
「無責任男」大人気●東京が1000万都市に●YS11が翔ぶ●キューバ危機
▶第14号（5月27日号）1965［昭和40年］5月13日発売
沖縄とベトナム戦争●日韓基本条約可決●ジャルパックに人気●北爆開始
▶第15号（6月3日号）1966［昭和41年］5月20日発売
ビートルズ来日●航空機事故が相次ぐ●巨大タンカー登場●中国で文革
▶第16号（6月10日号）1967［昭和42年］5月27日発売
ツイッギー来日●美濃部都政スタート●公害列島ニッポン●初の心臓移植
▶第17号（6月17日号）1968［昭和43年］6月3日発売
日大紛争と全共闘●若者と「あしたのジョー」●3億円事件●プラハの春
▶第18号（6月24日号）1969［昭和44年］6月10日発売
日本、GNP世界2位●安田講堂攻防戦●「男はつらいよ」●アポロ、月に
▶第19号（7月1日号）1941［昭和16年］6月17日発売
真珠湾攻撃●ゾルゲ逮捕●李香蘭、日劇で歌謡ショー●独ソ戦が始まる
▶第20号（7月8日号）1942［昭和17年］6月24日発売
ミッドウェー海戦●朝鮮人ら強制連行●在米日系人の運命●ユダヤ人虐殺

●創刊号は、特価290円。第2号から第8号は、定価550円、第9号（4月発売号）からは定価560円です。
●バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676
（1997年2月現在）

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1970
●三島由紀夫、割腹自殺！
3月11日号
第1巻第4号 通巻4号
平成9年3月11日発行（毎週火曜日発行）
編集人 近藤達士 発行人 丸本進一 発行所・発売所 株式会社 講談社
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
（編集）03-3944-1295（販売）03-5395-3604
定価550円（本体534円）

雑誌 23702-3/11 Ⓛ-2001/1/1　T1023702030556

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社